

令和7年度 国語「総合国語β」シラバス

単位数	4	学科・学年・学級	普通科・3学年・ABCEFG組
教科書	『精選 論理国語』(数研出版) 『文学国語』(数研出版)	副教材等	『入試頻出漢字+現代文語彙TOP2500』(いっすな書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『小論文ジャンル別キーワード解説』(桐原書店) 『大学入学共通テスト実践演習 現代文編』(数研出版)

1 学習の到達目標

「論理国語」「文学国語」の目標に準じて、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。	情報と社会	○「消費されるスポーツ」	・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。 ・文章内容をWEB記事の内容と関連づけて考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
5	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にする。	考えの表出	◆探究の窓 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」 「希望を語る」	・統計資料と文章から、日本の若者が持つ「自分自身のイメージ」について読み取る。 ・「希望」が形成される過程を文章から読み取り、将来への希望を持つために必要なことについて自分の考えを論述する。	
6	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	昭和初期の小説	●「山椒魚」	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	
6	「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。	明治の小説	●「舞姫」	・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。 ・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 ・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。 ・森鷗外『普請中』を読み、『普請中』の渡辺参事官・「女」、『舞姫』の豊太郎・エリス、計四人の人物像を、比較しながらまとめる。	
7					
8	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。	近代と現代の視点	○「科学・技術の歴史の中の社会」	・科学・技術の歴史を読み取り、『道具』としての意味合いを持った科学の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	
9	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。		◆探究の扉 科学の現場・科学と生命	・「科学」について書かれた二つの文章の内容と表現の共通点と相違点を読み取る。 ・科学における「権威主義」について理解する。	
			期末考査		

10	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。	考えの表出	○「空気」と「世間」・「世間」とは何か	・《「空気」と「世間」》と《「世間」とは何か》を読み比べたうえで、「世間」と「社会」という「ダブルスタンダードを生きる日本人」について考察し、意見をまとめる。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
11	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。	昭和中期の小説	●赤い藪	・本文を三つに分けて、「おれ」が置かれている状況をそれぞれまとめる。 ・「だが、家が出来ても、今度は帰ってゆくおれがいない」とは、どういうことを考える。 ・この作品に込められた寓意は、どのようなものかを話し合う。	
12	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。	情報と知性	○「生命の知性」	・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。	
学年末考査					
1	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にする。	考えの表出	○「人はなぜ働かなくてはならないのか」	・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。	

3 評価の観点

知識・技能	[論理国語] 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。 [文学国語] 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
思考・判断・表現	[論理国語] 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 [文学国語] 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	[論理国語] 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。 [文学国語] 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

国語という教科は、ことばや文章、思考や信条を通して、それらを文化として形作ってきた人間存在の本質を学ぶ学問です。様々なテキストを読むことで培う論理展開の方法や創造性によって、自身の考えをより深化させ、表現をより多彩なものとしていくことができます。また、先人の考え方を理解し、現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることも、皆さん自身の人生を豊かなものにしていけることでしょう。

授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

○漢字テストを実施します。しっかりと準備したうえでテストに臨みましょう。

○提出物の期限を守りましょう。

※皆さんのニーズを見ながら、予定を変更することもあります。

※『小論文ジャンル別キーワード解説』は、5・6・9章を前期中間考査で、1・4・7章を前期期末考査で、2・3・8章を後期中間考査で出題します。

令和7年度 国語科「総合古典」シラバス

単位数	3	学科・学年・学級	普通科・3学年・I 類型A～D
教科書	「古典探究 古文編」(数研出版) 「古典探究 漢文編」(数研出版)	副教材等	『体系古典文法』(数研出版) 『体系漢文』(数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315』(桐原書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編』(数研出版)

1 学習の到達目標

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

※学習項目の○は古文、●は漢文を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	随筆	○『枕草子』「二月つごもりごろに」	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか説明する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・古文単語テスト ・課題 ・定期考査
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	史伝	●『廉頗・藺相如』「壁を趙に帰さしむ」	・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような対応をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	
	「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	日記文学	○『建礼門院右京大夫集』「なべて世の」	・恋人の死を受けとめかねて苦しむ作者の様子がどのように表現されているか、抜き出す。 ・「なべて世の……」「悲しとも……」の歌に込められている作者の気持ちを説明する。 ・『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』で描かれる平資盛の人物像や逸話について調べる。	
			中間考査		
6	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	日記文学	○『蜻蛉日記』「うつろひたる菊」	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくるひて書いて、うつろひたる菊にさし」て贈った作者の気持ちについて話し合う。	
7	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	小説	●『本事詩』「人面桃花」	・第一段落から、崔護と女の互いに対する思いが読み取れる箇所を指摘する。 ・本文中の詩について、対比されているものは何かを考える。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。	
8 9	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	歴史物語	○『大鏡』「貫之と躬恒」	・本文中の和歌三首は、それぞれどのような点が評価されているのか説明する。 ・本文では醍醐天皇をどのような人物として描いているのか考える。	
			期末考査		

10	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えている。	物語	○『源氏物語』『紫の上の死』	・紫の上の病状が重くその死の近いことがどのように語られているか、まとめる。 ・死期の迫る紫の上の美しさについて、どのように述べられているか、まとめる。 ・本文中の歌は、それぞれどのような思いを詠んだものか、説明する。 ・紫の上の死がどのように描かれているか、まとめる。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・古文単語テスト ・課題 ・定期考査
	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	文章	●『柳河東集』『捕蛇者説』	・蔣氏が涙を流したのはなぜか、考える。 ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか、考える。	
11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えている。	評論	○『無名抄』『俊成自讃歌のこと』	・俊成は俊成の「夕されば……」の歌について、どういう点を批判しているのか、まとめる。	
12			学年末考査		
1	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	既習事項の総復習	○物語 ○日記・随筆 ○和歌・俳諧 ○評論 ●物語 ●漢詩 ●思想	・文法・句法・文学史も含めて、長文読解演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

古典は、日本古来の言語文化に触れながら、それらを形作ってきた人間存在の本質を学ぶ科目です。先人たちの考え方を理解し、そのうえで現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることは、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょう。授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

令和7年度 国語「古典研究A」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次A～E組(Ⅰ類)
教科書	古典探究 古文編(数研出版) 古典探究 漢文編(数研出版)	副教材等	正しく読み・解くための力をつける古典ステップ2.5(数研出版) 体系古典文法(数研出版) 体系漢文(数研出版) 読んで見て覚える 重要古文単語315(桐原書店) 新訂総合国語便覧(第一学習社)

1 学習の到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにする。
また、古典を通した先人のものの見方に触れ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。	閑居友 平家物語	◇「唐土の後の兄」 ◇「鹿の谷の陰謀」 ◇「福足君の舞」	・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
5	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。		◆「呂氏春秋」 ◆「聊斎志異」 ◆「貞観政要」	・訓読のきまりについて理解を深める。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。	
中間考査					
6	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。	更級日記 十訓抄 堤中納言物語	◇「親となりなば…」 ◇「四条大納言…」 ◇「長月の有明の月に」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 ・我が国の文化の特質について理解を深める。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
7	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。		◆「夢溪筆談」 ◆「晏子春秋」 ◆「列女伝」	・作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める姿勢を養う。 ・複数の作品や文章を読み比べ、論述したり発表したりする。 ・古典の作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める。	
8	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。	枕草子	◇「ねたきもの」	・内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に表れたものの見方や考え方を理解する。 ・自由な文体の随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	
9	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。		◆「荘子」	・思想を述べた文章や関連する解説文を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・思想を述べた文章を読み、その内容や形式、語彙などに関連した課題に応じて調査した成果をまとめたり発表したりする。	
期末考査					

10	・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。	今昔物語集 今鏡 平家物語 新花摘	◇「金を掘ること」 ◇「伏し柴」 ◇「生食の沙汰」 ◇「深夜の客」	・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・複数の作品や文章を読み比べ、論述したり発表したりする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
11	・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。		◆「国語」 ◆「史記」 ◆「孟子」 ◆「十八史略」	・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・思想を述べた文章の特徴について理解を深める。	
12	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。	花月草紙 古今著聞集	◇「浅草の市」 ◇「嵯峨天皇と弘法大師」 ◆「帰田録」 ◆「韓詩外伝」	・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ・古典の作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める姿勢を養う。 ・我が国の文化の特質について理解を深める。 ・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて内容を解釈する。 ・古典の作品を評価することを通して、我が国の言語文化について考えを深める。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。	
中間考査					
1	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。	大鏡 無名抄	◇「道長と隆家」 ◇「瀬見の小川」	・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて、内容の解釈を深める。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
1	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。		◆「搜神記」 ◆「宋名臣言行録」	・漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・漢詩の特徴について理解を深める。 ・漢詩の構成・展開のしかたについて理解を深める。	

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

古典は、日本古来の言語文化に触れながら、それらを形作ってきた人間存在の本質を学ぶ科目です。先人たちの考え方を理解し、そのうえで現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることは、皆さん自身の人生を豊かなものにしていけることでしょう。授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

令和7年度 国語科「古典研究B」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科・3学年・ⅡⅢ類型
教科書	「古典探究 古文編」(数研出版) 「古典探究 漢文編」(数研出版)	副教材等	『体系古典文法』(数研出版) 『体系漢文』(数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315』(桐原書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社)

1 学習の到達目標

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

※学習項目の○は古文、●は漢文を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	随筆	◇『枕草子』「二月つごもりごろに」	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか説明する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・古文単語テスト ・課題 ・定期考査
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	史伝	●『廉頗・藺相如』「壁を趙に帰さしむ」	・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような対応をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	
			中間考査		
6	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	日記文学	○『蜻蛉日記』「うつろひたる菊」	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつろひて書いて、うつろひたる菊にさし」て贈った作者の気持ちについて話し合う。	
7 8 9	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	小説	●『本事詩』「人面桃花」	・第一段落から、崔護と女の互いに対する思いが読み取れる箇所を指摘する。 ・本文中の詩について、対比されているものは何かを考える。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。	
			期末考査		
10	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	物語	○『源氏物語』「紫の上の死」	・紫の上の病状が重くその死の近いことがどのように語られているか、まとめる。 ・死期の迫る紫の上の美しさについて、どのように述べられているか、まとめる。 ・本文中の歌は、それぞれどのような思いを詠んだものか、説明する。 ・紫の上の死がどのように描かれているか、まとめる。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・古文単語テスト ・課題 ・定期考査
	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	文章	●『柳河東集』「捕蛇者説」	・蔣氏が涙を流したのはなぜか、考える。 ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか、考える。	
12			学年末考査		
1	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	既習事項の総復習	○物語 ○日記・随筆 ○和歌・俳諧 ○評論 ●物語 ●漢詩 ●思想	・文法・句法・文学史も含めて、長文読解演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

古典は、日本古来の言語文化に触れながら、それらを形作ってきた人間存在の本質を学ぶ科目です。先人たちの考え方を理解し、そのうえで現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることは、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょう。授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

令和7年度 国語「理数国語β」シラバス

単位数	3	学科・学年・学級	理数科・3学年・H組
教科書	『精選 論理国語』(数研出版) 『文学国語』(数研出版) 『古典探究 古文編』(数研出版) 『古典探究 漢文編』(数研出版)	副教材等	『入試頻出漢字+現代文語彙TOP2500』(いっずな書店) 『体系古典文法』(数研出版) 『体系漢文』(数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315』(桐原書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『ジャンル別キーワード解説』(桐原書店)

1 学習の到達目標

「論理国語」「文学国語」「古典探究」の目標に準じて、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画 ※「学習項目」の記号は、下記の区分を表す。○論理国語、●文学国語、◇古文、◆漢文

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料	
4	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。	近代と現代の視点	○科学・技術の歴史の中での社会	・科学・技術の歴史を読み取り、『道具』としての意味合いを持った科学」の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等	
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	史伝	◆壁を趙に帰さしむ(廉頗・藺相如)	・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような対応をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。		
	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	昭和初期の小説	●山椒魚	・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。		
6			中間考査			
7	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	日記文学	◇うつろひたる菊(蜻蛉日記)	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつろひて書いて、うつろひたる菊にさし」て贈った作者の気持ちについて話し合う。		
	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。	小説	◆人面桃花(本事詩)	・本文中の詩について、対比されているものは何かを考える。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。		
8	「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	情報と知性	○人と共にある図書館の未来は明るい・図書館と「ものがたり」	・「図書館」について書かれた二つの文章の内容に関して、共通点と相違点を読み取る。 ・文章内容を踏まえて「図書館のあり方」について考察し、自分の考えをまとめる。		
9						
			期末考査			

10	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	情報と知性	○生命の知性	・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
11	「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	歴史物語	◇道真と時平(大鏡)	・本文中の和歌と漢詩に込められた道真の心情を整理する。 ・語り手は、時平と道真に対してどのような思いを持ちながら語っているのか話し合う。	
12	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	昭和中期の小説	●赤い繭	・本文を三つに分けて、「おれ」が置かれている状況をそれぞれまとめる。 ・「だが、家が出来ても、今度は帰ってゆくおれがいない」とは、どういふことを考える。 ・この作品に込められた寓意は、どのようなものかを話し合う。	
			学年末考査		
	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握している。	思索の深化	○顔の所有	・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。	

3 評価の観点

知識・技能	実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

国語という教科は、ことばや文章、思考や信条を通して、それらを文化として形作ってきた人間存在の本質を学ぶ学問です。様々なテクストを読むことで培う論理展開の方法や創造性によって、自身の考えをより深化させ、表現をより多彩なものとしていくことができます。また、古典において先人たちの考え方を理解し、現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることも、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょう。

授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

単位数	2 単位	学科・学年・学級	理数科 3 年 H 組
教科書	詳述歴史総合（実教出版）	副教材等	明解 歴史総合図説シンフォニア四訂版（帝国書院）

1 学習の到達目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	*ヨーロッパの海外進出 *18世紀の東アジア	○大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	*産業革命 *アメリカ独立革命 *フランス革命とナポレオン *ウィーン体制とその崩壊	○産業革命の拡大が、世界や日本に与えた変化について理解する。 ○市民革命が生み出した社会の変化について理解する。	
			中間考査	○ウィーン体制の崩壊がもたらした世界への影響をさまざまな国の動きから考察する。	
	6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	*イスラーム世界の改革 *アヘン戦争 *明治維新	○19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとにどのような政治的变化が生じたのかについて理解する。	
	7	第4章 帝国主義の時代	*帝国主義政策 *日清・日露戦争 *韓国併合	○帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのように繰り返されたのかについて理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	9		期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	*第一次世界大戦とロシア革命 *ヴェルサイユ体制とワシントン体制	○第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響を理解する。 ○第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	*世界恐慌とニューディール政策 *ファシズムの台頭と第二次世界大戦	○経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目し各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを理解する。	
	12		*戦争末期の社会と日本の敗戦	○第二次世界大戦がどのように始まり、どのように拡大したか、また、日中戦争やアジア太平洋戦争とどのように結び付いたのかについて理解する。 ○アジア太平洋戦争下の人々の生活はどのようなものだったのか、また、戦争がどのように展開していく中で日本が降伏したのかについて理解する。	
			中間考査		

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1		* 国際連合と戦後世界	○ 連合国による枢軸国の占領政策と日本の戦後改革について理解する。	○ 授業への興味・関心 ○ 発言 ○ 課題の取り組み

3 評価の観点

知識・技能	近代以降のヨーロッパや日本における政治，ヨーロッパ各地域間や日本と欧米諸国の関係などを基に，世界と日本の政治と社会の関連性を理解している。
思考・判断・表現	近代以降の欧米諸国が日本に与えた影響などに着目して，主題を設定し，ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，近代以降の政治活動の特徴，ヨーロッパ各地域間の関係，日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。
主体的に学習に取り組む態度	近代以降のヨーロッパの動きと日本との関連に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求，解決しようとしている。

4 評価の方法

授業中の行動観察，作成したワークシートの分析，小テスト，定期考査（3回）をもとに，知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

“歴史の舞台に登場する人物達はその時何を思い，どう行動したか。歴史とは，それらの人物を通して自身を顧みる鏡である。” とある学者の発言の引用です。歴史の学習を，ただ単に過去の出来事を覚えるだけ，と捕らえるのではなく，過去からの時間のつながりの中での「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し，追究しようとする主体的・積極的な姿勢で取り組んで欲しいと思います。
--

単位数	4	学科・学年・学級	普通科 3年次 B組
教科書	新詳地理探究（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）	副教材等	新詳地理資料COMPLETE（帝国書院）、winningcompass（とうほう）

1 学習の到達目標

- ① 地理探究での学習の成果をふまえ、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える。現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な系統地理的な考察方法を身に付ける。
- ② ①をふまえ、世界の諸地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な地誌的な考察方法を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1 世界の地形 2 世界の気候	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の地形について、内外の営力の視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の気候について、気候要素と気候因子の関係からその成り立ちをとらえ、それぞれの気候区の特徴と、農業など人間生活の影響を考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
	5	第2章 資源と産業 第3章 人口、村落・都市	1 農林水産業 2 エネルギー・工業 1 世界の人口 2 村落と都市	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の資源と産業について、発達とその分布や立地について、特徴や課題を分析するとともに貿易や世界経済との関連を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の人口の変遷とその要因、今後の予測について理解する。 ・地理探究の学習内容をふまえ村落と都市の機能と立地、形態の特徴等を理解し、近年の変化と課題について認識を深める。	
			中間考査		
	6	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 アジア 第2章 アフリカとヨーロッパ	1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 中央・西アジア 1 アフリカ 2 ヨーロッパ	・地理探究の学習内容をふまえ、アジア各地の多様性について、民族や言語・宗教の観点からその特徴を理解する。あわせて工業発展や経済成長について、影響や課題について考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、アフリカならびにヨーロッパの資源と産業について、その分布と利用を宗主国と植民地の関係や世界のエネルギー状況を学習し考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
	7	第3章 南北アメリカ	1 北アメリカ 2 南アメリカ	・地理探究の学習内容をふまえ、南北アメリカの開発と発展を民族と産業の観点から理解する。あわせて多民族社会における課題を、現代世界の状況をふまえ考察する。	
	9	第4章 オセアニア	1 オセアニア 期末考査	・地理探究の学習内容をふまえ、移民の歴史と多文化社会や、自然を生かして発達した産業について理解し、強まるアジア太平洋地域との結びつきについて考察する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3部 総合演習	1 さまざまな地図と世界	・これまでの地理学習をふまえ、図法を理解し、現代世界の状況を地図から考察する能力を養う。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
			2 地域の調査と研究	・これまでの地理学習をふまえ、地域調査の技法を学習する。主として日本国内の都市について、地図や情報から地域を考察する能力を養う。	
	11		3 自然環境と生活	・これまでの地理学習をふまえ、地形や気候などの自然環境について整理し、人間生活や産業とのかかわりについて地域を考察する能力を養う。	
	12		4 生活文化と民族・宗教	・これまでの地理学習をふまえ、世界各地の生活文化と民族・宗教について整理し、地域の多様性を考察する能力を養う。また、多文化の共生に向けた取り組みや民族問題についても理解を深める。	
			中間考査		
	1		5 まとめ	・これまでの学習をふり返り、総合演習のまとめをおこなう。	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	○これまでの学習の成果をふまえ、さまざまな資料や地図・情報などの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めている。また、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状についてより高度に理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。
思考・判断・表現	○これまでの学習の成果をふまえ、地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○より高度な知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。

4 評価の方法

① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。 ② 課題学習等に作成するレポート等を評価のための資料とします。 ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。 ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

地理は暗記ではなく、地理的なものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力になります。また、時事問題にも関心をもち、ニュースや新聞をよく読みましょう。その時に、わからない地名・用語などは地図帳などで調べてみましょう。

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 DEF組
教科書	新詳地理探究（帝国書院），新詳高等地図（帝国書院）	副教材等	新詳地理資料COMPLETE（帝国書院），winningcompass（とうほう）

1 学習の到達目標

- ① 地理探究での学習の成果をふまえ、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える。現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な系統地理的な考察方法を身に付ける。
- ② ①をふまえ、世界の諸地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な地誌的な考察方法を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1 世界の地形 2 世界の気候	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の地形について、内外の営力の視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の気候について、気候要素と気候因子の関係からその成り立ちをとらえ、それぞれの気候区の特徴と、農業など人間生活の影響を考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
	5	第2章 資源と産業 第3章 人口、村落・都市	1 農林水産業 2 エネルギー・工業 1 世界の人口 2 村落と都市 中間考査	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の資源と産業について、発達とその分布や立地について、特徴や課題を分析するとともに貿易や世界経済との関連を考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、世界の人口の変遷とその要因、今後の予測について理解する。 ・地理探究の学習内容をふまえ村落と都市の機能と立地、形態の特徴等を理解し、近年の変化と課題について認識を深める。	
後期	6	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 アジア 第2章 アフリカとヨーロッパ	1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 中央・西アジア 1 アフリカ 2 ヨーロッパ	・地理探究の学習内容をふまえ、アジア各地の多様性について、民族や言語・宗教の観点からその特徴を理解する。あわせて工業発展や経済成長について、影響や課題について考察する。 ・地理探究の学習内容をふまえ、アフリカならびにヨーロッパの資源と産業について、その分布と利用を宗主国と植民地の関係や世界のエネルギー状況を学習し考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
	7	第3章 南北アメリカ	1 北アメリカ 2 南アメリカ	・地理探究の学習内容をふまえ、南北アメリカの開発と発展を民族と産業の観点から理解する。あわせて多民族社会における課題を、現代世界の状況をふまえ考察する。	
	9	第4章 オセアニア	1 オセアニア 期末考査	・地理探究の学習内容をふまえ、移民の歴史と多文化社会や、自然を生かして発達した産業について理解し、強まるアジア太平洋地域との結びつきについて考察する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3部 総合演習	1 さまざまな地図と世界	・これまでの地理学習をふまえ、図法を理解し、現代世界の状況を地図から考察する能力を養う。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
			2 地域の調査と研究	・これまでの地理学習をふまえ、地域調査の技法を学習する。主として日本国内の都市について、地図や情報から地域を考察する能力を養う。	
	11		3 自然環境と生活	・これまでの地理学習をふまえ、地形や気候などの自然環境について整理し、人間生活や産業とのかかわりについて地域を考察する能力を養う。	
	12		4 生活文化と民族・宗教	・これまでの地理学習をふまえ、世界各地の生活文化と民族・宗教について整理し、地域の多様性を考察する能力を養う。また、多文化の共生に向けた取り組みや民族問題についても理解を深める。	
			中間考査		
	1		5 まとめ	・これまでの学習をふり返り、総合演習のまとめをおこなう。	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	○これまでの学習の成果をふまえ、さまざまな資料や地図・情報などの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めている。また、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状についてより高度に理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。
思考・判断・表現	○これまでの学習の成果をふまえ、地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○より高度な知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。

4 評価の方法

① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。 ② 課題学習等に作成するレポート等を評価のための資料とします。 ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。 ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

地理は暗記ではなく、地理的なものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力になります。また、時事問題にも関心をもち、ニュースや新聞をよく読みましょう。その時に、わからない地名・用語などは地図帳などで調べてみましょう。

単位数	4	学科・学年・学級	普通科 3年次 B組
教科書	新詳地理探究（帝国書院），新詳高等地図（帝国書院）	副教材等	新詳地理資料COMPLETE（帝国書院），winningcompass（とうほう）

1 学習の到達目標

- ① 地理探究での学習の成果をふまえ、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える。現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な系統地理的な考察方法を身に付ける。
- ② ①をふまえ、世界の諸地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識をさらに深めるとともに、より高度な地誌的な考察方法を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1 世界の地形	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の地形について、内外の営力の視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
			2 世界の気候	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の気候について、気候要素と気候因子の関係からその成り立ちをとらえ、それぞれの気候区の特徴と、農業など人間生活の影響を考察する。	
			1 農林水産業 2 エネルギー・工業	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の資源と産業について、発達とその分布や立地について、特徴や課題を分析するとともに貿易や世界経済との関連を考察する。	
			1 世界の人口 2 村落と都市	・地理探究の学習内容をふまえ、世界の人口の変遷とその要因、今後の予測について理解する。 ・地理探究の学習内容をふまえ村落と都市の機能と立地、形態の特徴等を理解し、近年の変化と課題について認識を深める。	
			中間考査		
	6	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 アジア 第2章 アフリカとヨーロッパ	1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 中央・西アジア	・地理探究の学習内容をふまえ、アジア各地の多様性について、民族や言語・宗教の観点からその特徴を理解する。あわせて工業発展や経済成長について、影響や課題について考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
			1 アフリカ 2 ヨーロッパ	・地理探究の学習内容をふまえ、アフリカならびにヨーロッパの資源と産業について、その分布と利用を宗主国と植民地の関係や世界のエネルギー状況を学習し考察する。	
			1 北アメリカ 2 南アメリカ	・地理探究の学習内容をふまえ、南北アメリカの開発と発展を民族と産業の観点から理解する。あわせて多民族社会における課題を、現代世界の状況をふまえ考察する。	
			1 オセアニア	・地理探究の学習内容をふまえ、移民の歴史と多文化社会や、自然を生かして発達した産業について理解し、強まるアジア太平洋地域との結びつきについて考察する。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3部 総合演習	1 さまざまな地図と世界	・これまでの地理学習をふまえ、図法を理解し、現代世界の状況を地図から考察する能力を養う。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全3回）
			2 地域の調査と研究	・これまでの地理学習をふまえ、地域調査の技法を学習する。主として日本国内の都市について、地図や情報から地域を考察する能力を養う。	
	11		3 自然環境と生活	・これまでの地理学習をふまえ、地形や気候などの自然環境について整理し、人間生活や産業とのかかわりについて地域を考察する能力を養う。	
	12		4 生活文化と民族・宗教	・これまでの地理学習をふまえ、世界各地の生活文化と民族・宗教について整理し、地域の多様性を考察する能力を養う。また、多文化の共生に向けた取り組みや民族問題についても理解を深める。	
			中間考査		
	1		5 まとめ	・これまでの学習をふり返り、総合演習のまとめをおこなう。	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	○これまでの学習の成果をふまえ、さまざまな資料や地図・情報などの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸事象の地理的認識をさらに深めている。また、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題についてより高度な理解をすることで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状についてより高度に理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。
思考・判断・表現	○これまでの学習の成果をふまえ、地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○より高度な知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。

4 評価の方法

① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。 ② 課題学習等に作成するレポート等を評価のための資料とします。 ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。 ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

地理は暗記ではなく、地理的なものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力になります。また、時事問題にも関心をもち、ニュースや新聞をよく読みましょう。その時に、わからない地名・用語などは地図帳などで調べてみましょう。

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 C組
教科書	詳説 世界史（山川出版社）	副教材等	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）

1 学習の到達目標

- ① 世界史探究をさらに発展させ、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	序章——世界史へのまなざし 第1章 古代文明の出現	1 農業と気候 2 古代オリエントとユーゲ海地域 3 南アジアの古代文明 4 東アジアにめばえた文明	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	5	第2章 西アジアと地中海周辺	1 古代オリエントの統一 2 古代ギリシアとヘレニズム世界 3 ローマ帝国と地中海世界 中間考査		
	6	第3章 南アジア	4 古代末期の社会と地中海世界の解体 5 地中海世界とアジア 6 イスラーム世界の成立 7 中世初期の東西ヨーロッパ	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	7		1 南アジアにおける国家形成 2 インド世界の形成		
		第4章 東南アジア	1 海の道の形成と東南アジア		
		第5章 東アジアと中央ユーラシア	1 古代帝国の誕生 2 中国の分裂と多様化 3 隋唐帝国と東アジア		
	9	第6章 イスラーム世界の拡大と繁栄	1 イスラーム世界の発展 2 イスラーム文明 期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第8章 中世ヨーロッパ	1 中世ヨーロッパ社会の展開	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	11		2 中世西ヨーロッパ社会の成熟 3 中世西ヨーロッパの文化		
	12		4 中世ヨーロッパ社会の再編		
			中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1		5 ルネサンス	○問題形式演習	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	2		■資料で深める歴史の世界 レコンキスタ完成でスペイン社会はどのようにかわったのだろうか 諸地域の交流・再編への問い		
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い、総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

“歴史の舞台に登場する人物達がその時何を思い、どう行動したか。歴史とは、それらの人物を通して自身を顧みる鏡である。”とある学者の発言の引用です。歴史の学習を、ただ単に過去の出来事を覚えるだけ、と捕らえるのではなく、過去からの時間のつながりの中の「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする主体的・積極的な姿勢で取り組んで欲しいと思います。
--

単位数	4	学科・学年・学級	普通科 3年次 ABCD組
教科書	日本史探究（実教出版）	副教材等	図説日本史通覧（帝国書院）

1 学習の到達目標

- ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第3章 中世の国家・社会の変容	3 室町社会の展開と応仁の乱	・応仁の乱によって、畿内と地方の関係はどのように変化したのか理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
			4 室町文化	・室町文化の特徴と、政治や経済の動向との関係について理解する。	
			5 戦国大名の分国経営	・戦国大名の領国経営と畿内との政治的・経済的な関係について考える。	
			1 織豊政権	・織豊政権の政治・経済政策による都市や村落の支配の変化を考える。	
			2 天下統一の完成	・家康の対外政策がアジア各地やヨーロッパ諸国との交流に与えた影響について理解する。	
	5	第2章 幕藩体制の成立と展開	3 近世成立期の文化	・アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が文化に与えた影響について理解する。	
			1. 幕藩体制の成立	・法や制度による支配秩序の形成と幕藩体制の確立について考える。	
			2. 貿易の統制と対外関係	・幕府の対外政策の推移とアジアの国際情勢の変化について考える。	
			3. 近世社会のしくみ	・村落や都市の支配の変化について考える。	
			4. 幕府政治の展開	・統治政策の推移と経済政策の展開が人々の生活や社会に与えた影響について考える。	
	6		5. 経済の発展	・交通・流通の発達、農業・手工業・商業などの発達が相互にどのように関連しているのか考える。	
			6. 元禄文化と学芸の発展	・元禄文化が都市の発達や担い手となった新興町人や農民たちとの関連性について考える。	
			中間考査		
	7	第3章 近世の国家・社会の変容	1. 幕藩体制の動揺と幕政の改革	・飢饉や一揆の発生と幕府の政策との関係性について考える。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
後期			2. 欧米列強の接近と天保の改革	・外国船の接近による社会への影響や幕府の対応を考える。	
			3. 近世文化の成熟と変容	・江戸中・後期の文化が近代の転換や現代の社会に与えた影響について考える。	
		第4部 近現代の地域・日本と世界			
		第1章 開国から倒幕へ		・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の時代の転換を理解する。	
	9	第2章 明治維新	1. 明治維新	・明治政府の制度改革とその影響を考える。	
			2. 文明開化	・明治政府が行った宗教政策の過程を考える。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3章 近代国家の形成	1. 立憲国家への道 2. 議会政治の展開と日清・日露戦争 3. 産業革命と社会の変化	・自由民権運動の展開を考える。 ・日清戦争の原因・経過・結果とその後の国内の変化を考える。 ・財閥や寄生地主が生まれる経緯を考える。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	11	第4章 両大戦間の日本	1. 第一次世界大戦 2. 政党政治の展開	・第一次世界大戦の展開と日本の関わり方を考える。 ・第一次世界大戦後の国際秩序の構築の過程と目的を考える。	
	12		3. 市民文化の展開 中間考査	・都市部でのさまざまな変化を考える。	
	1	第5章 十五年戦争と日本	1. 満洲事変 2. 日中戦争 3. アジア・太平洋戦争（太平洋戦争）	・満洲事変の展開と、それにたいする国際社会の見方について考える。 ・二・二六事件の展開とその後の影響について考える。 ・アジア・太平洋戦争の経緯を考える。	

3 評価の観点

知識・技能	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。 ○考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。
主体的に学習に取り組む態度	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

4 評価の方法

① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。
② 課題学習等に作成するレポートを評価のための資料とします。
③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。
④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

日々の授業では、積極的な参加姿勢が求められます。歴史の学習をただ単に過去の出来事を覚えるというのではなく、過去からの時間のつながりの中で「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする姿勢で取り組んで欲しいと思います。前後の有機的なつながりを理解し、自らの歴史像を作り上げていくような授業参加を望みます。この授業を通して歴史的な見方や考え方を理解し、より多角的で柔軟な思考を身につけてもらいたいと期待しています。

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 ABCD組
教科書	日本史探究（実教出版）	副教材等	図説日本史通覧（帝国書院）

1 学習の到達目標

- ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第6章戦後日本の形成	1 占領と民主改革	戦後の日本と各国の関係について考える。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（2回）
			2 独立と日米安保体制の形成	冷戦がアジアに及ぼした影響について考える。 講和後の国内政治を考える。	
後期	4	第7章グローバル化のなかの現代日本	3 高度経済成長下の日本	高度経済成長とその問題点について考える。 ベトナム戦争から沖縄返還までの流れを考える。	
			1 「国際化」する経済大国	日本の高度経済成長が終わりを迎えた経緯を考える。 1980年代の行政改革で変化した内容を考える。	
			2 新たな世紀の日本へ	21世紀の世界や日本の政治・経済は、これまでとどこが大きく異なっているのかを考える。	
	6	1. 近世のナショナル・アイデンティティを考える	①朝鮮通信使 ②アイヌ	朝鮮通信使やアイヌの肖像といった資料をもとに、日本の対朝鮮・アイヌ観を考える。	
		2. 幕藩体制の矛盾を考える	大名行列のなかの武家奉公人	大名行列の構成から、近世武家社会の矛盾を考える。	
		3. 「開国」を考える	朝鮮の「開国」と近代日本	日朝両国の欧米への対応の違いとその後の日朝外交の展開を考える。	
	7	【中間考査】			
		4. 天皇の「神格化」を考える	天皇の肖像	天皇の肖像を教材に、明治政府がどのような近代天皇像を構想していたのかを考える。 日本の神仏信仰について、古代からさかのぼって考察する。	
		5. 文明開化とジェンダーを考える			
		6. 自由民権運動を考える	自由民権運動	秩父事件を通して自由民権運動への考察を深める。	
	9	7. 近代日本の戦争と植民地について考える	日清戦争	日清戦争はどのような戦争だったのか考える。	
		【期末考査】			

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	7. 近代日本の戦争と植民地について考える	①伊藤博文と安重根 ②朝鮮植民地支配 ③アジア太平洋戦争	伊藤博文と安重根が考えていた東アジアの「平和」とは何か、帝国日本はなぜ朝鮮に神社を建てたのか、朝鮮人は日本の戦争にどのように動員されたのか、東京大空襲・沖縄戦・原爆投下といった、悲惨な戦争はなぜ起こったのかを考察する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（1回）
	11	【中間考査】			
	12	7. 戦後日本の課題と責任について考える	①敗戦と解放後 ②朝鮮戦争 ③4・19革命 ④日韓基本条約 ⑤日朝国交正常化	敗戦・解放後の新しい社会づくりはどのように進められたか、朝鮮戦争に日本はどのように関わったのか、韓国の4・19革命から何を学ぶか、日本と韓国はどのように国交を正常化したのか、日朝・南北間の信頼醸成・平和構築はどのように進められてきたのかについて、現代の日韓関係を比較しながら考察していく。	
	1				

3 評価の観点

知識・技能	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切に効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。 ○考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。
主体的に学習に取り組む態度	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

4 評価の方法

① 年3回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。 ② 課題学習等に作成するレポートを評価のための資料とします。 ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。 ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

日々の授業では、積極的な参加姿勢が求められます。歴史の学習をただ単に過去の出来事を覚えるというのではなく、過去からの時間のつながりの中で「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする姿勢で取り組んで欲しいと思います。前後の有機的なつながりを理解し、自らの歴史像を作り上げていくような授業参加を望みます。この授業を通して歴史的な見方や考え方を理解し、より多角的で柔軟な思考を身につけてもらいたいと期待しています。

令和7年度 公民科 「政治・経済」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・3年次・A～G組
教科書	『高等学校 政治・経済』（清水書院）	副教材等	『最新政治・経済資料集』（第一学習社）

1 学習の到達目標

- ① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能）
- ② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現）
- ③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1編 現代日本の政治・経済	1. 政治とはなにか	・ 国家の三要素と主権について理解する。 ・ 民主主義における意思決定のあり方を中心に理解する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
		第1章 現代政治のしくみと日本	2. 法とはなにか	・ 道徳や社会規範との違いから多面的・多角的に考察する。	
			3. 現代民主政治へのあゆみと基本原理	・ 歴史的な経過を、社会契約説の展開とともに理解する。 ・ 民主政治の意義と課題について理解する。	
			4. 議会制民主主義と世界の政治体制	・ 世界の政治体制と比較することで民主政治の本質を理解する。	
	5		5. 日本国憲法の成立と基本原理	・ 二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・ 日本国憲法の基本原理が国民主権、基本的人権の尊重、平和主義であることを理解する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
			6. 基本的人権と新しい人権	・ 日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・ 新しい人権について理解する。 ・ 人権に関する現実社会の課題について考察する。	
			中間考査		
	6		7. 平和主義と安全保障	・ 日本国憲法の平和主義を理解する。 ・ 日本の安全保障と防衛について理解を深める。	
			8. 日本の政治機構	・ 立法・行政・司法の権限を、憲法の条文に基づいて理解する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
	7		9. 政党政治と政治制度	・ マス・メディアやSNSの役割と政治にもたらす影響について理解する。 ・ 政治参加の課題について考察する。	
	9		10. 地方自治	・ 地方自治の本旨について理解する。 ・ 戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 ・ 地方自治が抱える課題について考察する。	
			期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 現代経済のしくみと日本	1. 経済活動と経済主体	・生産と消費、分業と交換の関係について理解する。 ・希少性や機会費用といった経済的な考え方について理解する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポート など
			2. 市場経済の機能と限界	・市場経済の機能と限界を理解する。 ・市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。	
			3. 国民経済と景気変動	・GDPをはじめとした各指標について理解する。 ・経済成長、景気循環、物価の変動はなぜ生じるのかを考察する。 ・経済の変動のメカニズムについて理解する。	
	11		4. 物価とその変動	・インフレは国民の所得や富の格差を拡大すること、デフレは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解する。	
			5. 金融のしくみとはたらき	・現代の経済社会における金融の意義や役割を理解するとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割を理解する。 ・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。	
			6. 財政のしくみとはたらき	・政府の財政活動の役割、財政政策、租税の仕組みについて理解するとともに、財政に関わる課題について考察する。	
	12		中間考査		
		1	7. 日本経済のあゆみ	・復興期、高度経済成長期、バブル経済期、失われた20年のそれぞれの時期の日本経済の特徴を、統計資料を基に理解する。 ・21世紀の日本経済の課題を考察する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○口頭発表 ○課題レポート など
			8. 企業の活動と役割	・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を理解する。 ・これからの中小企業のあり方を考察する。	
			9. 労働問題と労働環境の変化	・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考察する。 ・労働問題について理解する。	
			10. 社会保障制度の充実	・社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。	
			11. 農業と食料問題	・日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。	

3 評価の観点

知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うことができたか。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めることができたか。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から、総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

1年後、大人として社会へ羽ばたいていくために必要な常識や教養をしっかりと身に付けましょう。社会的な問題やニュースなどに興味を持ち、常に自ら考え、調べ、理解しようとする態度で学習に取り組んでもらいたいです。状況によって取り扱う学習項目やその順番が変わることがあります。

令和7年度 公民科 「政治・経済」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科・3年次・H組
教科書	『高等学校 政治・経済』（清水書院）	副教材等	『最新政治・経済資料集』（第一学習社）

1 学習の到達目標

① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能） ② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現） ③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1編 現代日本の政治・経済	1. 政治とはなにか	・ 国家の三要素と主権について理解する。 ・ 民主主義における意思決定のあり方を中心に理解する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
		第1章 現代政治のしくみと日本	2. 法とはなにか	・ 道徳や社会規範との違いから多面的・多角的に考察する。	
			3. 現代民主政治へのあゆみと基本原理	・ 歴史的な経過を、社会契約説の展開とともに理解する。 ・ 民主政治の意義と課題について理解する。	
			4. 議会制民主主義と世界の政治体制	・ 世界の政治体制と比較することで民主政治の本質を理解する。	
	5		5. 日本国憲法の成立と基本原理	・ 二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・ 日本国憲法の基本原理が国民主権、基本的人権の尊重、平和主義であることを理解する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
			6. 基本的人権と新しい人権	・ 日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・ 新しい人権について理解する。 ・ 人権に関する現実社会の課題について考察する。	
			中間考査		
	6		7. 平和主義と安全保障	・ 日本国憲法の平和主義を理解する。 ・ 日本の安全保障と防衛について理解を深める。	
			8. 日本の政治機構	・ 立法・行政・司法の権限を、憲法の条文に基づいて理解する。	
	7		9. 政党政治と政治制度	・ マス・メディアやSNSの役割と政治にもたらす影響について理解する。 ・ 政治参加の課題について考察する。	
	9		10. 地方自治	・ 地方自治の本旨について理解する。 ・ 戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 ・ 地方自治が抱える課題について考察する。	
			期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 現代経済のしくみと日本	1. 経済活動と経済主体	・生産と消費、分業と交換の関係について理解する。 ・希少性や機会費用といった経済的な考え方について理解する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポート など
			2. 市場経済の機能と限界	・市場経済の機能と限界を理解する。 ・市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。	
			3. 国民経済と景気変動	・GDPをはじめとした各指標について理解する。 ・経済成長、景気循環、物価の変動はなぜ生じるのかを考察する。 ・経済の変動のメカニズムについて理解する。	
	11		4. 物価とその変動	・インフレは国民の所得や富の格差を拡大すること、デフレは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解する。	
			5. 金融のしくみとはたらき	・現代の経済社会における金融の意義や役割を理解するとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割を理解する。 ・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。	
			6. 財政のしくみとはたらき	・政府の財政活動の役割、財政政策、租税の仕組みについて理解するとともに、財政に関わる課題について考察する。	
	12		中間考査		
		1	7. 日本経済のあゆみ	・復興期、高度経済成長期、バブル経済期、失われた20年のそれぞれの時期の日本経済の特徴を、統計資料を基に理解する。 ・21世紀の日本経済の課題を考察する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○口頭発表 ○課題レポート など
			8. 企業の活動と役割	・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を理解する。 ・これからの中小企業のあり方を考察する。	
			9. 労働問題と労働環境の変化	・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考察する。 ・労働問題について理解する。	
			10. 社会保障制度の充実	・社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。	
			11. 農業と食料問題	・日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。	

3 評価の観点

知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うことができたか。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めることができたか。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から、総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

1年後、大人として社会へ羽ばたいていくために必要な常識や教養をしっかりと身に付けましょう。社会的な問題やニュースなどに興味を持ち、常に自ら考え、調べ、理解しようとする態度で学習に取り組んでもらいたいです。状況によって取り扱う学習項目やその順番が変わることがあります。

単位数	2単位	学科・学年・学級	3学年 C選択
教科書	新 倫理 新訂版 (清水書院)	副教材等	テオリーア最新倫理資料集 (第一学習社)

1 学習の到達目標

先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、人間の存在や価値に関わる課題について思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成します。また、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を涵養し、現代の倫理的課題を自己の課題と関連づけて探求し、論理的思考力や表現力を身に付けて、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を養います。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	○青年期の課題と自己形成	青年期の課題と生き方 ①現代の青年 ②青年期の位置づけ ③青年期の特徴 ④主体性の確立 ⑤自己理解	・古今東西の人間観に基づき、あらためて人間とは何かを考察する。また、青年期の特徴を理解すると共にライフサイクルの中で、青年期がいかに重要な時期かを自覚する。	・古今東西の人間観を通して、自分なりの人間観を構築できたか。ライフサイクルの中で、青年期の特徴を整理し、青年期の重要性に気付くことができたか。
		○人間としての自覚と生き方	ギリシア思想 ①自然哲学とソフィスト ②ソクラテス、プラトン、アリストテレス ③ヘレニズム時代の思想	・ギリシャ思想の基本的な概要を学習すると共に、ソクラテスやプラトン、アリストテレスの思想から様々な世界観があることを知り、自分独自で世界を考察していく力を身に付ける。 ・哲学者の代名詞であるソクラテスの教えと生き方について学習する。	・ギリシア思想の流れと特徴を整理し、自分なりに考察・意見を述べるができるか。 ・「善く生きる」とは何かを理解し、また自分にとっての善とは何かを思索、主張できるか。
	5		世界宗教 ①キリスト教 ②イスラーム ③仏教	・善や美など、世界の本質について思索したプラトンの思想を整理、学習する。 ・西洋思想の母体の一つであるヘブライズムの概要について学習し、自身の宗教観を構築する。	・アイデアと現象の関係を理解すると共に自身の世界観を構築できているか。 ・イエスはユダヤ教の何を継承し何を否定したのかを理解しているか。
	6			・古代インド思想バラモン教について学習し、東洋の源流思想の特徴について知る。 ・仏教の開祖である釈迦の思想と生涯について学習する。また、釈迦の思想をもとに自身の人生観や生命観、生死の問題についても思索していく。	・カースト制度やウパニシャッド哲学の基本性格を理解できているか。 ・ブッダの教えの内容を整理すると共に、仏教の根本精神を理解できているか。また、生命や生死の問題について関心をもち自身の考えを少しでも深めることができたか。
	7 8	○現代に生きる人間の倫理	西洋思想 ①ルネサンスとヒューマニズム ②宗教改革と人間の内面 ③社会契約説と啓蒙思想 ④幸福と功利 ⑤公共性と正義	・西洋の様々な思想を紹介し、基本的事項を身につける。知識のための知識ではなく、より実践的な生活に生かせる知識を身につけ、西洋思想の観点から世界を考察していく。	・ニーチェやベーコン、デカルトなどの世界観を考察して、それらに触れることにより新たな発見、独自の世界観を構築できるか。
	9		前期期末考査 答案返却	・実存主義において、「存在するとは何か？」存在に対する認識の通路を見出す。	・ハイデガー、サルトル、ヤスパースの考え方を理解しているか。

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	○国際社会に生きる日本人の自覚	日本の風土と外来思想の受容 ①日本人の人間観・自然観・宗教観 ②日本人の仏教受容 ③近世社会の思想 ④近代的個人の自覚	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本の美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解させる。 ・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。	・古代日本人のものの考え方を、精神風土との関係でとらえるとともに、宗教観・倫理観を理解できたか。 ・外来思想である仏教の受容や日本的仏教の特色、無常観・美意識・武士道などにおける特色を捉えることができたか。
	11			・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。 ・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解させる。	・儒教の日本的展開について、日本の朱子学や陽明学、古学、古文辞学を中心に知識を整理しているか。 ・西洋文化との接触後、日本人の思想形成についての流れを理解できたか。
	12	○現代の諸課題と倫理	自然や科学技術、社会、文化をめぐる諸課題 ①環境と倫理 ②生命と倫理 ③科学技術の発展とその課題 ④文化や宗教の多様性 後期中間考査	・先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述させる。	・科学技術が進歩した現代における生と死の問題についてのディベートなどで、積極的な姿勢が見受けられるか。

3 評価の観点

知識・技能	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料を通して人間としての在り方生き方を考え、まとめることができる。
思考・判断・表現	自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。また、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。また、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。

4 評価の方法

上記3に示した3つの観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

様々な人間関係、社会不安など時代は混迷し、行き詰まりを見せています。そうした社会の中で、確かな人生を歩む羅針盤と一緒に探求していきたいと思います。一年間よろしくお願いします。

令和7年度 公民科 「政治・経済研究」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・3年次・選択
教科書	『高等学校 政治・経済』（清水書院）	副教材等	『最新政治・経済資料集』（第一学習社）

1 学習の到達目標

政治・経済の授業内容を踏まえ、さらに発展させて公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能）

② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現）

③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第2編 現代の国際政治・経済	1. 国際社会の成立と国際法	・国内政治や国内法と国際政治や国際法を比較しながら、国際社会の特質をとらえる。 ・国際司法裁判所や国際刑事裁判所の役割を中心に学び、国際的な人権保障のあり方について考える。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
	5	第1章 現代の国際社会と政治	2. 国際連合と国際協力	・集団安全保障の考え方を理解する。 ・総会や安保理などの仕組み、現代のPKO、専門機関や関連機関のはたらきについて学び、国連の課題やこれからの国際協力のあり方について考える。	
			中間考査		
	6		3. 国際社会の変遷と動向	・冷戦期の国際政治について学び、現代の国際社会への影響を考える。 ・アメリカの「テロとの戦い」を中心に、冷戦後の国際政治について学び、テロや戦争をなくすために本当に有効な政策とは何か考える。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
	7		4. 国際紛争と軍備管理	・核武装の背景となっている「核抑止論」について検討し、核軍縮の課題やこれからの政策について考える。 ・旧ユーゴスラビアやルワンダなどの事例から、民族紛争の根本的な原因や解決策を考える。 ・難民問題について理解し、日本の難民受け入れについて多面的多角的な視点で検討する。	
	9		期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 現代の国際社会と経済	1. 国際経済のしくみ	・グローバル経済の現状と課題をとらえる。 ・リカードの比較生産費説やリストの発展段階説を踏まえ、自由貿易・保護貿易について学習する。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○定期考査 ○口頭発表 ○課題レポートなど
	12		2. 国際収支と為替	・国際収支表について学習する。 ・外国為替の仕組みについて学習する。 ・需要と供給の価格メカニズムと為替レートを関連付けてとらえる。	
	1		3. 国際協調と国際経済機関の役割	・戦後の国際経済体制がどのように形成され変容してきたか理解する。	
			中間考査		
			4. グローバル化と国際経済	・アジアの事例やEUの事例を中心に、様々な地域経済統合について学び、これからの国際経済協力のあり方について考える。 ・南北問題や南南問題への対処について学ぶ。 ・SDGs や様々なグローバルイシューを踏まえ、国際協力とは何か考える。	○授業の取組状況 ○授業プリント ○口頭発表 ○課題レポートなど

3 評価の観点

知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うことができたか。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めることができたか。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

国際政治・国際経済の分野を中心に、政治・経済の内容をさらに深め発展的に学んでいきます。社会的な問題やニュースなどに興味を持ち、常に自ら考え、調べ、理解しようとする態度で学習に取り組んでももらいたいです。状況によって取り扱う学習項目やその順番が変わることがあります。

令和7年度 数学科 「数学Ⅲ」シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科3年次D～G組（Ⅲ類型・SSHコース）
教科書	数学Ⅲ（数研出版）	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ＋C〔複素数平面、式と曲線〕

1 学習の到達目標

極限、微分法及び積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身に付ける。さらに、それらをもとに大学入試に対応できる応用力を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 関数 2章 極限	1節 数列の極限 2節 関数の極限	無限数列の収束・発散の定義を理解し、極限に関する法則を利用して様々な数列、関数の極限についての考察をします。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	5	3章 微分法	1節 導関数 中間考査	「数学Ⅱ」で学んだ微分法について理論的な組み立てを再構築し、さらに広く、深く学習します。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	6		2節 いろいろな関数の導関数	媒介変数で表された関数など、より複雑な関数を微分する方法を学習します。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	7	4章 微分法の応用	1節 導関数の応用 2節 速度と近似式 期末考査	3章で学んだ内容をもとに、微分を応用する上で必要と思われる基本的性質や方法を正しく学びとれるようにします。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	5章 積分法	1節 不定積分 2節 定積分	積分法とその応用について厳密に理論を組み立て、応用問題を解くための基礎力を養います。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	11	6章 積分法の応用	面積・体積		
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	総合演習		数学ⅠAⅡBCⅢの全分野を総合的に取り上げ、国公立大学入試2次試験に対応できる応用力を養います。 大学入学共通テストに対応できる応用力を養います。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・課題（主・思・知）

3 評価の観点

知識・技能	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくはありません。しかし、それらが累々と積み上がって高度な体系になるのです。ですから、ある段階でのつまずきや知識の欠落が、次のステップに進むうえでの障害になるのです。毎日の予習・復習、特に復習が重要です。また、「わかった」という気分だけでは、実際に問題を前にしたとき、それが解けないことが多いのです。理解すべき内容を、的確に自力で表現することができてはじめて理解できたといえます。普段の学習では、理解したと思えたらその内容を自分で書いてみることを励行してください。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 A B C D E 組
教科書	数学C（数研出版）	副教材等	新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C〔ベクトル〕

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり身に付ける

(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 平面上のベクトル	2節 ベクトルと平面図形	平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	5	2章 空間のベクトル	5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 ベクトル方程式 1 空間の座標 2 空間のベクトル	ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を身に付ける。 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を身に付ける。	
			中間考査		
	6	2章 空間のベクトル	3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 座標空間における図形	平面ベクトルの概念を理解したうえで、より発展的に考えることで空間図形を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	
後期	7				・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	9				
			期末考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	3章 複素数平面	複素数平面 複素数と図形	複素数平面上の点と複素数との1対1の対応と、複素数の加減乗除や累乗、累乗根が複素数平面上でどのように表せるかを考えます。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	11	4章 式と曲線	1 節 2次曲線 2 節 媒介変数表示と極座標	いろいろな2次曲線や媒介変数表示についての学習をします。	
	12		中間考査		
	1	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統一的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが多くなるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

令和7年度 数学科 「数学C」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科3年次D～G組（Ⅲ類型・SSHコース）
教科書	数学C（数研出版）	副教材等	新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C〔ベクトル〕 数学Ⅲ+C〔複素数平面、式と曲線〕

1 学習の到達目標

ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を身に付ける。さらに，数学のよさを認識し，それらを活用できる能力を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章 平面上のベクトル	2節 ベクトルと平面図形	ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	5	2章 空間のベクトル	空間の座標		
			中間考査		
	6	2章 空間のベクトル	空間のベクトル	平面ベクトルの概念を理解したうえで，より発展的に考えることで空間図形を認識し，事象の考察に活用できるようにする。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	7				
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	3章 複素数平面	複素数平面 複素数と図形	複素数平面上の点と複素数との1対1の対応と、複素数の加減乗除や累乗、累乗根が複素数平面上でどのように表せるかを考えます。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	11	4章 式と曲線	1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	いろいろな2次曲線や媒介変数表示についての学習をします。	
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	総合演習		数学ⅠAⅡBⅢCの全分野を総合的に取り上げ、国公立大学入試2次試験に対応できる応用力を養います。 大学入学共通テストに対応できる応用力を養います。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・課題（主・思・知）

3 評価の観点

知識・技能	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統一的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し，年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス，授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくはありません。しかし，それらが累々と積み上がって高度な体系になるのです。ですから，ある段階でのつまずきや知識の欠落が，次のステップに進むうえでの障害になるのです。毎日の予習・復習，特に復習が重要です。また，「わかった」という気分だけでは，実際に問題を前にしたとき，それが解けないことが多いのです。理解すべき内容を，的確に自力で表現することができてはじめて理解できたといえます。普段の学習では，理解したと思えたらその内容を自分で書いてみることを励行してください。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 A B C組
教科書	数学Ⅰ・数学A（数研出版）	副教材等	大学入学共通テスト 数学重要問題集（実教出版）

1 学習の到達目標

数学Ⅰ・数学Aについて既習内容を確認しながら，理解をさらに深め，総合的な知識の習得と発展的な技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し，処理する能力を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学Ⅰ 数と式	式の展開 因数分解 対称式 整数部分・小数部分 絶対値記号 1次不等式 連立不等式	数学Ⅰの内容を、教科書の重要事項を振り返りながら復習し，さらに発展的な内容も扱います。 (特に重点的に復習する内容) 「数と式」に関して ・対称式 ・絶対値を含む1次不等式 ・不等式を満たす整数の個数	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題(主・思・知)
	5	2次関数	平方完成 2次関数の決定 放物線の平行移動	「2次関数」に関して ・2次関数のグラフの頂点 ・グラフとx軸，放物線と直線との共有点 ・2次関数の最大・最小 ・絶対値のついた2次不等式 ・ある範囲で常に成り立つ2次不等式	・定期考査 (主・思・知) ・提出物(主)
		中間考査			
	6	2次関数	最大値・最小値 判別式 解の配置 2次不等式	・解の配置 ・指定された解をもつ条件	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題(主・思・知)
	7	図形と計量	三角比 三角不等式 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 円に内接する四角形	「図形と計量」に関して ・三角形の内接円に関する問題 (余弦定理、相互関係、面積の公式)	・定期考査 (主・思・知) ・提出物(主)
	9	集合と論証	集合 集合の要素の個数 命題の真偽 必要条件・十分条件	「集合と論証」に関して ・必要条件、十分条件に関する問題	
		期末考査			

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	データの分析	代表値 箱ひげ図 分散・標準偏差 共分散・相関係数 変量の変換	「データの分析」に関して ・箱ひげ図 ・相関係数 ・変量の変換	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知)
	11	数学A 場合の数と確率	順列・組み合わせ 反復試行 条件付き確率 期待値	数学Aの内容を、教科書の重要事項を振り返りながら復習し、さらに発展的な内容も扱います。 (特に重点的に復習する内容) 「場合の数と確率」に関して ・組分け ・同じものを含む順列 ・重複組み合わせ	・課題(主・思・知)
		図形の性質	三角形の五心 チェバメネラウスの定理 方べきの定理 内接球・外接球	「平面図形」に関して ・チェバの定理 ・メネラウスの定理 ・方べきの定理	・定期考査 (主・思・知) ・提出物(主)
	12	中間考査			

3 評価の観点

知識・技能	数と式及び2次関数，図形と計量，集合と論証，データの分析，場合の数と確率，図形の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。また，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数と式及び2次関数，図形と計量，集合と論証，データの分析，場合の数と確率，図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている
主体的に学習に取り組む態度	数と式及び2次関数，図形と計量，集合と論証，データの分析，場合の数と確率，図形の性質に関心をもつとともに，それらを事象の考查に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し，年間の学習成績とします。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

本講座は既習内容を確認しながら，より発展的な内容を扱うことで実践力を身につけていきます。予習と復習を大切にしてください。特に解けなかった問題の復習や類題を解くことは徹底的に行ってください。問題を解き終わったときには，その問題のポイントをメモしておきましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 DFG組
教科書	数学Ⅱ・数学B・数学C（数研出版）	副教材等	短期完成 大学入学共通テスト対策 数学ⅡBC[ベクトル]（数研出版）

1 学習の到達目標

数学Ⅱ・数学B・数学Cについて既習内容を確認しながら，理解をさらに深め，総合的な知識の習得と発展的な技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し，処理する能力を養う。

- 1 数学Ⅱ・B・Cについて必要事項を補い，総合的に理解を深める。
- 2 数学の基礎力を固め，入試の形態に対応できる実践力をつける。
- 3 論理的に思考し，問題を解決する能力をつける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学Ⅱ 式と証明 複素数と方程式	・式と計算 ・複素数と方程式	数学Ⅱ・B・Cの内容を，教科書の重要事項を振り返りながら復習し，問題演習を行う。共通テスト形式の問題集を利用することで各問の出題の意図・誘導の通りに的確に解答が導けるようにする。 「式と証明」「複素数と方程式」に関して ・解と係数の関係 ・高次方程式	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	5	図形と方程式 数学B 数列 中間考査	・円と直線 ・軌跡と領域 ・いろいろな数列 ・数学的帰納法と漸化式	「図形と方程式」に関して ・軌跡と領域 「数列」に関して ・漸化式で定義された数列の一般項 ・数学的帰納法	・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	6	数学Ⅱ 三角関数 指数関数・対数関数	・加法定理 ・方程式・不等式，最大・最小 ・指数関数 ・対数関数 ・方程式・不等式 ・最大値・最小値	「三角関数」に関して ・三角関数のグラフ ・三角方程式・三角不等式 ・三角関数の合成 ・三角関数の最大値・最小値 「指数関数・対数関数」に関して ・指数方程式・対数方程式 ・桁数・小数首位 ・指数関数・対数関数の最大値・最小値	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	9	数学B 統計的な推測 期末考査	・確率分布 ・統計的推測	「統計的な推測」に関して ・二項分布・正規分布 ・推定・検定	

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	数学Ⅱ 微分法・積分法	・微分係数・導関数 ・微分法の応用 ・接線の方程式 ・積分の計算 ・面積	「微分法・積分法」に関して ・接線の方程式 ・方程式の解の個数 ・定積分 ・面積の計算	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	11	数学C ベクトル	・和と実数倍 ・内積の計算 ・空間ベクトル	「ベクトル」に関して ・ベクトルの成分と内積 ・三角形の重心，内心 ・交点の位置ベクトル	・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
		実践演習	・三角関数 ・図形と方程式 ・指数関数・対数関数 ・微分法・積分法 ・数列	年間の学習内容の振り返り・実践演習を行う。	
	12	中間考査			

3 評価の観点

知識・技能	数列，統計的な推測，ベクトル，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考え方における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。また，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数列，統計的な推測，ベクトル，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考え方における数学的な見方や考え方を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数列，統計的な推測，ベクトル，いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考え方に関心をもつとともに，それらを事象の考査に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し，年間の学習成績とします。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

本講座は既習内容を確認しながら，より発展的な内容を扱うことで実践力を身につけていきます。予習と復習を大切にしてください。特に解けなかった問題の復習や類題を解くことは徹底的に行ってください。問題を解き終わったときには，その問題のポイントをメモしておきましょう。ただ公式や問題の解き方を暗記するのではなく，1つ1つの内容を理解するよう努め，欠席した場合やよく理解できなかった箇所はそのままにせず友人や先生に聞くように心掛けてください。

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 E組
教科書	数学Ⅰ・数学A・ 数学Ⅱ・数学B（数研出版）	副教材等	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・A／Ⅱ・B・C （Z会）

1 学習の到達目標

数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ及び数学Bについて既習内容を確認しながら，理解をさらに深め，総合的な知識の習得と発展的な技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し，処理する能力を養う。

- 1 数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ及び数学Bについて必要事項を補い，総合的に理解を深める。
- 2 数学の基礎力を固め，大学等の入試に対応できる実践力を身に付ける。
- 3 論理的に思考し，問題を解決する能力を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 方程式と不等式 （数学Ⅰ）	式の計算，実数，絶対値， 1次不等式，2次方程式	数学Ⅰ及び数学Ⅱの内容を，教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習し，より発展的な学習を行う。 （特に重点的に学習する内容） 「方程式と不等式」に関して 対称式の値 絶対値を含む方程式・不等式 係数に文字を含む方程式・不等式 不等式を満たす整数の個数	・授業の態度（主） ・質問に関する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知）
		第2章 集合と論理 （数学Ⅰ）	集合，命題と論証	「集合と論理」に関して 命題の真偽と必要条件・十分条件 対偶の利用・背理法による命題の証明	
	5	第8章 式と証明・高次方程式 （数学Ⅱ）	整式の除法，分数式，恒等式，相加平均と相乗平均の関係，複素数，2次方程式とその解，剰余の定理・因数定理，高次方程式	「式と証明・高次方程式」に関して 相加平均と相乗平均の関係 2次方程式の解と係数の関係 剰余に関する問題 高次方程式の虚数解 1の虚数の累乗根の性質	
		第9章 図形と方程式 （数学Ⅱ）	直線の方程式，円の方程式，円と直線の関係，軌跡，領域	「図形と方程式」に関して 点と直線の距離の公式の利用 2つの図形の交点を通る図形の方程式 媒介変数と軌跡 領域を用いた命題の真偽の判定	
		第4章 2次関数 （数学Ⅰ）	2次関数のグラフ，2次関数の最大・最小，2次不等式	「2次関数」に関して 定義域に制限のある2次関数の最大・最小 方程式・不等式の解と関数のグラフの関係 2次方程式の解の存在範囲 絶対値を含む2次式で表される関数の考察	
			中間考査		
	6	第7章 場合の数と確率 （数学A）	順列・組合せ，和事象・余事象の確率，独立な試行・反復試行の確率，条件付き確率，期待値	数学Ⅰ，数学A及び数学Ⅱの内容を，教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習し，より発展的な学習を行う。 （特に重点的に学習する内容） 「場合の数と確率」に関して 同じものを含む順列・組分けの問題 重複組合せとその応用 条件付き確率 期待値	・授業の態度（主） ・質問に関する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知）
		第3章 図形と計量 （数学Ⅰ）	三角比の相互関係，正弦定理・余弦定理，三角形の面積，多角形の計量，空間図形の計量	「図形と計量」に関して 三角形とその内接円や外接円に関する問題 多角形の計量 空間図形の計量	
	7	第6章 図形の性質 （数学A）	三角形の成立条件，三角形の重心・外心・内心，チェバの定理・メネラウスの定理，円に内接する四角形，円と接線，方べきの定理	「図形の性質」に関して チェバの定理・メネラウスの定理 方べきの定理	
	8 9	第11章 三角関数 （数学Ⅱ）	三角関数の相互関係，三角関数のグラフ，三角関数の加法定理，2倍角・3倍角・半角の公式，三角関数の合成，三角関数を含む方程式・不等式・関数	「三角関数」に関して 周期関数の周期 三角関数の合成 三角関数を含む方程式・不等式 三角関数を含む関数の最大値・最小値	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第10章 指数関数・対数関数 (数学Ⅱ)	累乗根, 指数法則, 指数関数とそのグラフ, 対数の性質, 対数関数とそのグラフ, 指数と対数の関係, 指数・対数を含む方程式・不等式・関数, 常用対数	数学Ⅰ, 数学Ⅱ及び数学Bの内容を, 教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習し, より発展的な学習を行う。 (特に重点的に学習する内容) 「指数関数・対数関数」に関して 指数と対数の関係 指数・対数を含む方程式・不等式 指数・対数を含む関数の最大値・最小値 常用対数の利用 「微分・積分」に関して 3次関数のグラフの性質 高次方程式の異なる実数解の個数 定積分で表された関数 曲線や直線で囲まれた図形の面積 「数列」に関して 群数列とその応用 いろいろな隣接2項間漸化式の解法 確率と漸化式 「データの分析」に関して 箱ひげ図・散布図からのデータの傾向の把握 データの相関 「統計的な推測」に関して 二項分布の正規分布による近似 母平均・母比率の推定 仮説検定	・授業の態度 (主) ・質問に関する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知)
		第12章 微分・積分 (数学Ⅱ)	微分係数と導関数, 関数の値の変化, 高次関数のグラフと高次方程式・不等式の解, 不定積分, 定積分と面積		
	11	第13章 数列 (数学B)	等差数列・等比数列とその和, 和の記号 Σ , いろいろな数列の和, 階差数列, 漸化式		
		第5章 データの分析 (数学Ⅰ)	代表値, 四分位数と箱ひげ図, 外れ値, 分散・標準偏差, 相関係数, 仮説検定の考え方		
	12	第14章 統計的な推測 (数学B)	確率分布, 確率変数の期待値と分散, 確率変数の変換, 二項分布, 正規分布, 推定, 仮説検定 中間考査		
		総合演習	大学入学共通テスト及び個別試験に向けての総合演習	大学入学共通テスト, 国公立大学の2次試験及び私立大学の個別試験に向けての総合演習を行う。	・授業の態度 (主) ・質問に関する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知)

3 評価の観点

知識・技能	方程式と不等式, 集合と論理, 図形と計量, 2次関数, データの分析, 図形の性質, 場合の数と確率, 式と証明・高次方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数, 微分・積分, 数列及び統計的な推測における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。また, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 方程式と不等式, 集合と論理, 図形と計量, 2次関数, データの分析, 図形の性質, 場合の数と確率, 式と証明・高次方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数, 微分・積分, 数列及び統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	方程式と不等式, 集合と論理, 図形と計量, 2次関数, データの分析, 図形の性質, 場合の数と確率, 式と証明・高次方程式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数, 微分・積分, 数列及び統計的な推測に関心をもちとともに, それらを事象の考査に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し, 年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス, 授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

「総合数学」では, 主として大学入学共通テスト形式の問題を通して, 基本についての復習をしながら, 応用力を身に付けていきます。
 3年生はこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通してから授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか, どこでつまづいたのかがわかり, 授業を受けて得られるものが多くなるはずです。また, 1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして, 授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

単位数	4	学科・学年・学級	普通科・3年次・D～G組
教科書	物理(実教出版)	副教材等	セミナー 物理基礎・物理(第一学習社)

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。また、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・運動とエネルギー	・様々な運動 ・物体の運動とエネルギー	・直線運動を拡張した平面の運動における位置や変位、速度、速度の合成・分解、相対速度、加速度について理解する。 ・力のモーメント、剛体のつりあい、平行な2力の合成、偶力、重心などを学習し、剛体にはたらく力のはたらきについて理解する。(ベクトルの外積について数学とクロスカリキュラム)	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
		・運動量の保存	・衝突運動	・運動量について学習し、運動方程式を用いて、運動量の変化と力積の関係を理解する。 ・物体にはたらく力の大きさが変化する場合について、力と時間の関係を示すグラフから平均の力を理解する。 ・運動量と力積の関係をj用いて、運動量保存の法則を導き、直線状や平面上での衝突、物体が分裂、合体する場合のそれぞれで、運動量保存の法則が成り立つことを理解する。	
	5	・円運動と単振動	・等速円運動 ・慣性力 ・単振動 ・万有引力	・等速円運動の角速度、周期、回転数、速度を学習し、加速度と向心力を理解する。 ・遠心力を含めた慣性力を学習し、物体にはたらく力を異なる観測者の立場で把握できるようにする。 ・単振動と等速円運動の関係から、速度や加速度、復元力を表す式について理解する。 ・単振動におけるエネルギーの関係を理解する。 ・ケプラーの法則、万有引力の法則を学習し、万有引力と重力の関係を定量的に理解する。	
	6	・気体の性質と分子の運動	・様々な物理現象とエネルギーの利用 ・気体分子の運動	・ボイルの法則やシャルルの法則などの気体に関する法則を学習し、理想気体の状態方程式について理解する。 ・気体の圧力について、分子レベルで求められることを理解する。 ・気体の内部エネルギー、気体の体積変化に伴う仕事を学習し、熱力学の第1法則を理解する。 ・定積変化や定圧変化などの気体の状態変化を学習し、各状態変化で熱力学の第1法則を適用する。	
			中間考査		
	7	・光波	・ドップラー効果 ・レンズの性質 ・ヤングの実験	・ドップラー効果について学習する。 ・光の速さを学習し、反射、屈折、全反射などの光の進み方について理解する。 ・光の分散、散乱、偏光など、光の性質について理解する。 ・凸レンズや凹レンズの基本的な性質を学習し、各レンズによる実像、虚像のでき方の仕組みについて、レンズの式や倍率の式を用いて理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉を学習し、薄膜による干渉、くさび形空気層による干渉などの干渉条件を理解する。	
	9	・電場と電位	・静電気力 ・電場 ・電位 ・物質と電場 ・コンデンサー	・電場の基本的な性質を学習し、電場と電気力線の関係、一様な電場について理解する。 ・電位の基本的な性質を学習し、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極について理解する。 ・コンデンサーの原理を学習し、平行板コンデンサーの電気容量、誘電体、誘電率について理解する。 ・コンデンサーを接続したときの合成容量、静電エネルギーについて理解する。	
		・電流	・オームの法則 ・直流回路 ・半導体	・電子の運動をもとにした、オームの法則の導出過程を理解する。 ・電流計、電圧計、電池の内部抵抗について理解し、さまざまな回路において、キルヒホッフの第1、2法則を適用する。 ・半導体の性質を学習し、ダイオードやトランジスタのしくみについて理解する。(行列と連立方程式の解法について数学とクロスカリキュラム)	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・電流と磁場	・磁場 ・電流のつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力	・磁気力に関するクーロンの法則を学習し、電流がつくる磁場の強さと磁場の概形について理解する。 ・ローレンツ力について学習し、磁場中に入射した粒子の運動を理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
		・電磁誘導と交流	・ローレンツ力 ・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導 ・交流の発生 ・電磁波	・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し、磁場中を動く導体に生じる起電力や、導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 ・交流の発生のおしきみを理解し、交流回路における抵抗、コイル、コンデンサーの特性を理解する。	
	11	・電子と光	・電子 ・光の粒子性 ・X線 ・粒子の波動性	・光電効果とその特徴を学習し、光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。 ・光子の考えによって、光電効果を理解する。 ・X線の発生とその原理を学習し、特性X線や連続X線、最短波長などについて理解する。 ・ラウエやブラッグの実験を学習し、エネルギー保存の法則や、運動量保存の法則を用いて、コンプトン効果を定量的に理解する。 ・物質波について学習し、粒子性と波動性の二重性を理解する。	
	12	・原子と原子核	・原子の構造とエネルギー準位 ・原子核 ・放射線とその性質 ・核反応と核エネルギー ・素粒子 中間考査	・水素原子における電子の軌道半径やエネルギー準位について、式を用いて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し、反応の際に放出、吸収されるエネルギーを理解する。	
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1		・力学 ・波動 ・電磁気学 ・原子	・入試に向け、問題演習を通して物理全体の理解を深める。	

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して、観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、技能、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- ・授業内容がわかるだけではテストで点数は取れない。授業中の演習だけでは不十分であるから、問題集の導入問題、基本例題、基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。
- ・疑問に思ったことはすぐに解決を。質問は大歓迎。
- ・物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると、より理解を深めることができる。

令和7年度 理科「化学」シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科・3年・Ⅱ類型/Ⅲ類型
教科書	高等学校化学（第一学習社）	副教材等	セミナー化学（第一学習社） サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ	①反応速度 ②化学反応の速さと濃度 ③化学反応の速さと温度 ④触媒	・反応速度が単位時間内に変化する物質の量で表れることを理解する。 ・反応速度と濃度との関係を理解する。 ・反応速度と温度との関係を理解する。 ・触媒の働きとその利用を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	5	第4節 化学平衡	①可逆反応と化学平衡 ②平衡定数 ③平衡移動	・可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味を理解する。 ・平衡定数の意味を理解する。 ・化学平衡の移動について、ルシャトリエの原理を中心に理解する。	
		第5節 電離平衡	①電離平衡と電離定数 ②電離定数とpH ③塩の性質と反応 ④緩衝液と緩衝作用 ⑤溶解度積	・弱酸・弱塩基の電離平衡や水の電離平衡について理解する。 ・pHについての理解を深め、平衡定数の応用を理解する。 ・塩の性質とその反応について、化学平衡の概念から理解する。 ・緩衝液とその作用を理解する。 ・溶解度積を理解する。	
	6		中間考査		
	7	第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴	①特徴と分類 ②構造式の決定	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の構造式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
		第2節 脂肪族炭化水素	①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素	・飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・不飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。	
		第3節 酸素を含む脂肪族化合物	①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン	・アルコール、エーテルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・アルデヒド、ケトンの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・カルボン酸、エステルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・油脂、セッケンの性質を、その構造と関連付けて理解する。	
	9	第4節 芳香族化合物	①芳香族炭化水素 ②酸素を含む芳香族化合物 ③窒素を含む芳香族化合物 ④芳香族化合物の分離	・芳香族炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・フェノール類、芳香族カルボン酸の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族アミン、アゾ化合物の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の分離を化合物の性質にもとづいて理解する。	
			期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第Ⅴ章 高分子化合物			
		第1節 高分子化合物	①高分子化合物の特徴	・高分子化合物の特徴を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	11	第2節 天然高分子化合物	①単糖・二糖 ②多糖 ③アミノ酸 ④タンパク質 ⑤核酸	・単糖、二糖について、その構造や性質を理解する。 ・多糖について、その構造や性質を理解する。 ・再生繊維と半合成繊維について、その合成や性質を理解する。 ・ α -アミノ酸について、その性質や構造を理解する。 ・タンパク質について、その構造や性質を理解する。 ・核酸について、その構造や働きを理解する。	
		第3節 合成高分子化合物	①合成高分子化合物の特徴 ②合成繊維 ③合成樹脂 ④機能性高分子化合物 ⑤ゴム	・合成高分子化合物の特徴や分類を理解する。 ・合成繊維について、その構造や性質、用途を理解する。 ・合成樹脂について、その構造や性質、用途を理解する。 ・機能性高分子について、その構造や性質、用途などを理解する。 ・天然ゴムと合成ゴムについて、その構造や性質、用途などを理解する。	
	12		中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。

4 評価の方法

●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取組

授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

(2)ノート(授業プリント)の記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。

(5)定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和7年度 理科「化学」シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科・3年・G組SSHコース
教科書	高等学校化学（第一学習社）	副教材等	セミナー化学（第一学習社） サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ	①反応速度 ②化学反応の速さと濃度 ③化学反応の速さと温度 ④触媒	・反応速度が単位時間内に変化する物質の量で表れることを理解する。 ・反応速度と濃度との関係を理解する。 ・反応速度と温度との関係を理解する。 ・触媒の働きとその利用を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	5	第4節 化学平衡	①可逆反応と化学平衡 ②平衡定数 ③平衡移動	・可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味を理解する。 ・平衡定数の意味を理解する。 ・化学平衡の移動について、ルシャトリエの原理を中心に理解する。	
		第5節 電離平衡	①電離平衡と電離定数 ②電離定数とpH ③塩の性質と反応 ④緩衝液と緩衝作用 ⑤溶解度積	・弱酸・弱塩基の電離平衡や水の電離平衡について理解する。 ・pHについての理解を深め、平衡定数の応用を理解する。 ・塩の性質とその反応について、化学平衡の概念から理解する。 ・緩衝液とその作用を理解する。 ・溶解度積を理解する。	
	6		中間考査		
	7	第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴	①特徴と分類 ②構造式の決定	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の構造式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
		第2節 脂肪族炭化水素	①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素	・飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・不飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。	
		第3節 酸素を含む脂肪族化合物	①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン	・アルコール、エーテルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・アルデヒド、ケトンの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・カルボン酸、エステルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・油脂、セッケンの性質を、その構造と関連付けて理解する。	
	9	第4節 芳香族化合物	①芳香族炭化水素 ②酸素を含む芳香族化合物 ③窒素を含む芳香族化合物 ④芳香族化合物の分離	・芳香族炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・フェノール類、芳香族カルボン酸の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族アミン、アゾ化合物の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の分離を化合物の性質にもとづいて理解する。	
			期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第Ⅴ章 高分子化合物			
		第1節 高分子化合物	①高分子化合物の特徴	・高分子化合物の特徴を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	11	第2節 天然高分子化合物	①単糖・二糖 ②多糖 ③アミノ酸 ④タンパク質 ⑤核酸	・単糖、二糖について、その構造や性質を理解する。 ・多糖について、その構造や性質を理解する。 ・再生繊維と半合成繊維について、その合成や性質を理解する。 ・ α -アミノ酸について、その性質や構造を理解する。 ・タンパク質について、その構造や性質を理解する。 ・核酸について、その構造や働きを理解する。	
		第3節 合成高分子化合物	①合成高分子化合物の特徴 ②合成繊維 ③合成樹脂 ④機能性高分子化合物 ⑤ゴム	・合成高分子化合物の特徴や分類を理解する。 ・合成繊維について、その構造や性質、用途を理解する。 ・合成樹脂について、その構造や性質、用途を理解する。 ・機能性高分子について、その構造や性質、用途などを理解する。 ・天然ゴムと合成ゴムについて、その構造や性質、用途などを理解する。	
	12		中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。

4 評価の方法

●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取組

授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

(2)ノート(授業プリント)の記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。

(5)定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和7年度 理科 「 生物 」 シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 EG組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社） アクセスノート生物（実教出版）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第3章 細胞と分子	①生体物質と細胞 ②タンパク質の構造と性質 ③生命現象とタンパク質	・細胞を構成する物質について学習します。 ・細胞骨格と細胞小器官について学習します。 ・アミノ酸とペプチド結合、タンパク質の構造と機能について学習します。 ・酵素反応の速度や阻害について考察します。 ・生体膜について学習します。	実験等レポート 授業内提出物 前期末考査
	5	第4章 代謝	①代謝とエネルギー ③異化 ②炭酸同化	・呼吸のしくみ全般について学習します。 ・発酵、特にアルコール発酵について考察します。 ・光合成のしくみ全般について学習します。 ・光合成色素について学習します。 ・細菌の光合成について、また様々な細菌のエネルギー利用を学習します。	
	6	第1章 生物の進化	①生命の起源と細胞の進化 ②遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ③進化のしくみ	・原始地球とその環境、化学進化について考えます。 ・減数分裂と染色体の組み合わせ、組換えと組換え価について考えます。 ・遺伝子頻度とハーディー・ワインベルグの法則について考察します。 ・中立進化や適応進化などの概念を学習します。	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
	7	第2章 生物の系統と進化 第8章 動物の反応と行動	①生物の系統 ②人類の系統と進化 ②動物の行動 中間考査	・系統関係の推定を行います。分子系統樹をはじめ、様々な系統樹と生物の系統について学習します。 ・霊長類の進化について学習します。 ・生得的行動と習得的行動について学習します。特に、様々な習得的行動について学習します。	
9		第5章 遺伝情報とその発現	①DNAの複製 ②遺伝子の発現 期末考査	・DNAの構造や複製様式について学習します。 ・真核生物と原核生物の転写及び翻訳について学習し、それぞれの違いについて考察します。	

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第10章 生態系のしくみと人間の関わり	①個体群と生物群集 ②生態系の物質生産と消費 ③生態系と人間生活	・個体群内のさまざまな相互作用について学習します。 ・個体群間のさまざまな相互作用について学習します。 ・物質生産や物質収支を通してエネルギーの流れについて学習します。特に窒素の循環について考えます。	実験等レポート 授業内提出物 後期中間調査
		第6章 遺伝情報の発現調節と発生	①遺伝子の発現調節 ②発生と遺伝子の発現	・原核生物と真核生物の遺伝子の発現調節について学習します。 ・配偶子形成と受精について学習します。 ・母性因子とホメオティック遺伝子について学習します。 ・カエルの発生について学習します。 ・誘導と誘導の連鎖について学習します。	
	11	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	①遺伝子を扱う技術 ②遺伝子を扱う技術の応用	・クローニング、PCR、電気泳動、DNAシーケンシング等の遺伝子を扱う技術や解析方法について考えます。 ・遺伝子を扱う際の課題について考察します。	
		第8章 動物の反応と行動	①刺激の受容と反応	・ニューロンのしくみについて学習します。 ・眼や耳などの受容器について学習します。 ・脳の構造と機能、反射について学習します。 ・筋肉の構造と筋収縮のしくみについて学習します。	
	12	第9章 植物の成長と環境応答	①植物と環境 ②植物の一生と植物ホルモン	・植物ホルモンについて学習します。 ・発芽、成長、花芽形成、果実の成熟など植物の一生を通じたホルモンとの関連について考察します。	
			中間調査	大学入学共通テストや入試問題に対する実践的な演習を行います。	
	1				
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。 定期調査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。 評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

教科書および問題集をよく読み、繰り返し解くことで、基礎学力の定着をはかること。 進度が早いので、自分なりに努力することが必要だと考えます。授業前に予習ができると理解が早いです。なるべく問題にあたって、解く力を身につけましょう。内容を深く扱うので、何が大事なことなのか自分なりに精査しましょう。
--

令和7年度 理科 「物理基礎研究」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 B, C, E 組
教科書	物理基礎 (実教出版)	副教材等	セミナー物理基礎+物理(第一学習社)

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め，科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・物体の運動	・運動の表し方	・物体の運動の様子を定量的に表現する方法を理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	5		・力と運動の法則	・物体にはたらく様々な力を理解する。 ・物体にはたらく力による運動の変化を運動の3法則を通して理解する。	
	6		中間考査	・運動方程式の立て方について学習し，斜面上の運動，連結した物体の運動など，様々な運動状態における運動方程式の立て方を理解する。	
	7	・エネルギー	・運動とエネルギー	・仕事，仕事の原理，仕事率を学習し，物理における「仕事」について理解する。 ・運動エネルギー，位置エネルギー，保存力を学習し，運動エネルギーや位置エネルギーの変化について，式を用いて理解する。 ・力学的エネルギーの保存について理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	9		・熱 期末考査	・熱運動，セルシウス温度，絶対温度を学習し，温度について理解する。 ・熱と熱量を学習したのち，熱平衡，潜熱，比熱，熱容量，熱量の保存，熱膨張について理解する。 ・熱と仕事は同等であることを学習し，内部エネルギー，熱力学の第1法則を理解する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・波	・波とは何か	・正弦波と波，振幅，波長，周期，振動数，媒質の振動など，波の要素について学習する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	11		・音波	・重ねあわせの原理，波の独立性，定常波，波の反射，固定端反射，自由端反射について学習する。	
	12			・音波の性質や伝わり方について理解する。	
			中間考査	・共振，共鳴，弦の固有振動，気柱の共鳴など，物体の振動について学習する。	
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	・電気	・物質と電流	・摩擦電気を通して電気の原因となる電荷を学習し，静電気力，電流や電圧，オームの法則などについて理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
			・問題演習	・ジュールの法則を理解し，電力と電力量を理解する。 ・入試問題に即した形で問題演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念，原理・法則などについての系統的な理解を深め，科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して，観察，実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め，事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い，総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

・日々の復習をしっかりと実施し、分からない所を出来るだけ早く無くす努力をして下さい。授業中の演習だけでは不十分であるから、問題集の導入問題，基本例題，基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。 ・繰り返し演習することで、理解が深まります。しっかりと授業で解いていた生徒は、良い結果が出ています。 ・物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると，より理解を深めることができる。

令和7年度 理科 「物理研究」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年次 D, E, F組
教科書	物理 (実教出版)	副教材等	セミナー物理基礎+物理(第一学習社)

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め，科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・運動とエネルギー	・運動とエネルギー ・平面運動と剛体のつり合い	・物理基礎で学んだ「力と運動」の考え方を平面に拡張する。また回転運動を取り入れた物体の運動を学習する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	5	・運動量の保存	・運動量の保存	・運動量を理解し，物体が衝突や分裂する場合の運動を理解する。	
	6	・円運動と単振動	・円運動と単振動 ・万有引力について理解する。	観測者が加速度運動している場合の，物体の運動を理解する。 周期的な運動について理解する。 万有引力について理解する。	
			中間考査		
	7	・気体の性質と分子の運動	・物質の状態変化を，原子や分子の運動として扱う	・物質の状態変化を，原子や分子の運動として取り扱う。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
		・光波	・光の性質や様々な現象について理解する	・波の復習をする。その応用として，光について学習する。 ・光の性質や様々な現象について理解する。	
	9	・電場と電位	・電場中の荷電粒子の動きや簡単な電流回路について理解する	・電場中の荷電粒子の動きや簡単な電流回路について理解する。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・電流 ・電流と磁場	・電流 ・電流と磁場	・電流を電場中の荷電粒子の流れとして捉え、電流と磁場の関係を取り扱う。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	11	・電磁誘導と交流		・交流について学習する。 ・電磁気の総まとめとして電磁誘導を学習し、電磁波を取り扱う。	
	12				
			中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	・原子と原子核	・原子 ・電子と光 ・原子と原子核 ・問題演習	・電子の性質や光の粒子性、粒子の波動性など、量子力学の基礎概念を学び、原子核とエネルギーを取り扱う。 ・入試問題に即した形で問題演習を行う。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して、観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い、総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

・日々の復習をしっかりと実施し、分からない所を出来るだけ早く無くす努力をして下さい。授業中の演習だけでは不十分であるから、問題集の導入問題、基本例題、基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。 ・繰り返し演習することで、理解が深まります。しっかりと授業で解いていた生徒は、良い結果が出ています。 ・物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると、より理解を深めることができる。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 e 選択者
教科書	第一学習社 高等学校 化学基礎	副教材等	数研出版 チェック&演習 化学基礎 実教出版 サイエンスビュー化学総合資料

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを学習する。また、物質の三態変化が熱運動の激しさが変わることによっておこることを理解する。	授業中の取り組み 提出された課題 定期考査の点数 小テストの点数など
		第2節 原子の構造と元素の周期表	①原子の構造 ②元素の相互関係	・元素について学習し、同素体の存在を理解する。 ・原子の構造について理解する。 ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。	
	5	第3節 物質と化学結合	①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④共有結合の結晶 ⑤分子からなる物質の利用 ⑥金属と金属結合 ⑦結晶の比較	・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶、イオン結晶の利用を理解する。 ・分子の形成について学習し、分子からできる物質、さらに分子結晶、共有結晶について理解する。また、分子からなる物質の利用についても学習する。 ・金属結合、金属結晶について理解し、金属の利用を学習する。 ・化学結合の種類によって、物質を分類できることを理解する。 ・結晶の比較について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。	
			中間考査		
	6	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式	①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式	・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・状態変化と化学変化の違いを理解し、化学反応式のつくり方を理解する。	
	7				
	9		⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	・化学反応における量的関係について理解する。 ・化学反応における基本法則を学ぶ。	
			期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2節 酸と塩基の反応	①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定	- 酸と塩基の定義を理解する。 - 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 - 中和を理解し、塩の種類を学習する。 - 中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。	授業中の取り組み 提出された課題 定期考査の点数 小テストの点数など
	11	第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の製錬	- 酸化・還元の定義を理解する。 - 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 - 酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 - 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 - 酸化還元反応の利用例として、製錬や電池の原理を学習する。	
	12		中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。
思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

予習や復習として問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図りましょう。

令和7年度 理科 「化学研究β」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 d, e選択者
教科書	第一学習社 高等学校 化学	副教材等	実教 サイエンスビュー 化学総合資料 数研 チェック&演習 化学

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通じて、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技術を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	I 章 物質の状態 第1節 化学結合と結晶 第2節 物質の三態 第3節 気体の性質 第4節 溶液の性質	化学結合と結晶 物質の三態 気液平衡 気体の体積 状態方程式・実在気体 希薄溶液の性質、コロイド	- 化学結合の種類によって、物質を分類できることを理解します。 - ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則また、気体の状態方程式を理解し、その応用を学習する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。 - 理想気体と実在の気体との違いを理解する - 溶液について沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の定量的な取扱いを学習する。 - コロイドを理解し、その溶液の性質を学習する。	- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - 実験レポート - 小テスト
	5	II 章 物質の変化と平衡 第1節 物質とエネルギー 第2節 電池・電気分解 第3節 反応の速さ 第4節 化学平衡	反応熱 電池・電気分解 反応の速さ、平衡 平衡移動 中間考査	- 化学反応の速さには違いがあり、速さを支配する要素について学習する。反応速度の表し方を学習し、条件によって反応速度がどのように変化するか理解する。 - 化学平衡の概念、平衡移動の原理を学習し、化学平衡の知識がどのように活用されているかを理解する。	
	6	III 章 無機物質 第1節 非金属元素の単体とその化合物 第2節 典型元素の単体とその化合物 第3節 遷移元素の単体とその化合物 第4節 無機物質と人間生活	元素の分類 ハロゲン 酸素、硫黄 窒素、リン 炭素、ケイ素 アルカリ、アルカリ土類 金属典型元素の金属 遷移元素 金属の利用 セラミックスの利用 期末考査	- ハロゲンとその化合物について、性質や用途を学習する。 - 酸素・硫黄とその化合物について、性質や用途を学習する。 - 窒素、リンとその化合物について、性質や用途を学習する。 - 炭素、ケイ素とその化合物について、性質や用途を学習する。 - 無機物質の性質や反応に関する事物・現象に関心を持ち、それらに関する基本的な概念や法則を意欲的理解し演習する。無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点でとらえ、科学的に考察、判断できるようにし、演習を通して定着を図る。	- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - 実験レポート - 小テスト
	7				
	9				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	IV章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と構造	①特徴と分類 ②化学式の決定	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の化学式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。 ・アルカン、シクロアルカン、アルケン、シクロアルケン、アルキンについて、その性質や用途を学習する。 ・アルコール、エーテル・アルデヒド、ケトンについて、その性質や用途を学習する。 ・カルボン酸、エステル・油脂、セッケン・芳香族炭化水素について、その性質や用途を学習する。 ・演習で定着を図る	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
		第2節 脂肪族炭化水素	①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素		
	11	第3節 酸素を含む脂肪族化合物	①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン		
		第4 芳香族化合物	①芳香族炭化水素 ②単糖と二糖類 ③アミノ酸		
	12	V章 高分子化合物 第1属 合成高分子化合物	①高分子化合物の構成 ②合成樹脂 ③合成繊維	・高分子化合物について、その分類や重合の種類を学習する。具体的に合成樹脂と合成繊維/デンプンとセルロース/天然繊維と天然ゴム/タンパク質やDNA、RNA・機能性高分子/合成ゴムについて、その構造や性質、用途などを学習する。 ・演習で定着を図る	
		第2属 天然高分子化合物	①デンプンとセルロース ②タンパク質		
		第3属 高分子化合物と人間生活	③天然繊維と天然ゴム ④核酸		
			中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価の方法

下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取組

授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。

評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

(2)ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。

評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。

(5)中間・定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。

評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年 BCDE 組
教科書	高等学校 生物基礎（第一学習社）	副教材等	ニューステージ 生物図表（浜島書店） 問題タイプ別大学入学共通テスト生物基礎（実教出版）

1 学習の到達目標

科学や科学現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移	①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ	・植生と環境は密接な関係にあることに気づく。 ・叢の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する。 ・植生は不変ではなく、遷移していることを理解する。	提出物， 定期考査， 実験レポート
		2. バイオーム	①遷移とバイオーム	・叢それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。	
		第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全	①生態系の成り立ち ②生態系における生物どうしの関わり ①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	・地球上には、陸上以外にもさまざまな生態系がみられることを理解する。 ・生物は、食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。 ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。 ・人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。	提出物， 定期考査， 実験レポート
	5	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性	①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来 中間考査	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 ・すべての生物のからだは細胞からなることを見だし、生物が共通にもつ特徴を理解する。 ・生物に共通してみられる特徴は、進化の過程で共通祖先から受け継がれてきたものであると考察できる。 ・原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を理解する。また、真核細胞において、細胞小器官の機能の概要を理解する。	
	6	2. 生物とエネルギー	①生物とエネルギー ②代謝とATP ③代謝と酵素	・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 ・光合成は、光エネルギーによってATPをつくり、このエネルギーによって有機物を合成する過程であることを理解する。 ・呼吸は、酵素の働きによって有機物が段階的に分解されて、ATPがつくられる過程であることを理解する。 ・酵素の基本的な特徴について理解する。	提出物， 定期考査， 実験レポート
	7	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造	①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配	・DNAの基本的な構造を理解する。 ・塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることに気づき、半保存的複製を理解する。 ・細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。	
	9	2. 遺伝情報とタンパク質	①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム 期末考査	・タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解する。 ・2つの塩基の並びが1つのアミノ酸に対応していることを理解する。 ・DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ（転写）、これがアミノ酸配列に置き換えられる（翻訳）という流れを理解する。 ・空遺伝子が常に発現しているのではなく、細胞によって発現する遺伝子が異なっていることを理解する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持	①恒常性と神経系	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。	提出物, 定期考査, 実験レポート
			②恒常性と内分泌系	・内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。	
	11	2. 免疫	③体内環境を調節するしくみ	・血糖濃度と自律神経系および内分泌系の関わりについて気づき、血糖濃度調節のしくみについて理解する。	
			①生体防御 ②自然免疫 ③獲得免疫	・免疫を担う細胞や器官の種類と働きを概要を理解する。 ・自然免疫のしくみを理解する。 ・獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・□次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。	
	12		④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	・自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。 ・アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。	
1			中間考査 総合演習		

3 評価の観点

知識・技能	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。 定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。 評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

基礎生物で扱う多くのテーマは私たちの生活の中で見られる事柄と関連しており、さらに私たち自身が生命活動を行うにあたり、身体の中でどのようなことが起きているのかなど、分子（DNA）レベルから学んでいきます。 授業を通して、あなたたち自身のこれまでの経験や知識を関連付けながら、より専門的な理解を深めて専門知識を定着させていきましょう。
--

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年 EG組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ 生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり学習することを目指す。

(1) 生物学における基本的な概念，原理・法則などについての系統的な理解を深め，科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 生物や生物現象に関して，観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。

(3) 自然に対する関心を高め，事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 生物の進化	①生命の起源と細胞の進化 ②遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ③進化のしくみ	遺伝子頻度が集団内で変化することを実験を用いて理解します。	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
	5	第2章 生物の系統と進化	①生物の系統 ②人類の系統と進化	生物の毛糸分類絵を理解します 人類の進化とその歩みについて理解します。	
		第3章 細胞と分子	①生体物質と細胞 ②タンパク質の構造と性質 中間考査	細胞の観察を通して細胞の共通性等を理解します。 酵素の実験を通して酵素の性質を理解します。	
	6	第4章 代謝	①代謝とエネルギー ②炭酸同化 ③異化	代謝の基本的な知識について学びます。	実験等レポート 授業内提出物 前期期末考査
	7	第5章 遺伝情報とその発現	①DNAの複製 ②遺伝の発現	DNAの転写・翻訳・複製について知識を深めます。	
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第6章 遺伝子の発現調節	①発生と遺伝子の発現	ウニ・カエルを例として生物の発生について学びます。	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
	11	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	①遺伝子を扱う技術	遺伝子組換え実験により、遺伝子を扱う技術を理解します。	
		第8章 動物の反応と行動	①刺激の受容と反応 ②動物の行動	神経や筋収縮について発展的に学習します。	
	12		中間考査		
	1	第9章 植物の成長と環境応答	①植物と環境	植物の発生と植物ホルモンを中心に発展的に学びます。	授業内提出物
		第10章 生態系のしくみと人間の関わり	①個体群と生物群集 ②生態系の物質生産と消費	生体家に関わる動物や植物とその環境について学びます。	

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。 定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。 評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

教科書および問題集をよく読み、繰り返し解くことで、基礎学力の定着をはかりましょう。 実験は積極的に取り組み、結果をきちんとまとめ、自分で考えたことや調べたことを記述したレポートを作成し提出してください。
--

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年次 A, B, C, D組（選択者）
教科書	啓林館 高等学校 地学基礎	副教材等	実教出版 ベストフィット地学基礎 新課程

1 学習の到達目標

地学基礎の授業を踏まえた問題演習や課題の取り組みを通じて、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を定着させ、理解を深める。用語や法則の暗記にとどまらず、それらを自分の言葉で説明できる。共通テストで必要とされる資料分析力、思考力を身につける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 1節 地球の概観	・地球の形状	・地球の大きさと形状、地球の内部構造について、密度もしくは質量を軸として理解する。	・議論
		2節 地球の内部構造	・地球内部の構造	・問題演習	・問題演習
	5	第2章 活動する地球 1節 プレートテクトニクスと地球の活動 2節 地震	・プレートテクトニクス ・地震の発生機構 中間考査	・火山や地震について、プレートテクトニクスを基に地球規模の現象として理解する。 ・火山災害や地震災害に関して議論や発表を行う。 ・問題演習 ・課題（レポート作成）	・課題 ・定期考査
	6	3節 火山活動と火成岩の形成 第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造 1節 大気圏	・火山活動の仕組み ・火成岩の形成と鉱物 ・大気圏の構造 ・オゾン層とオゾンホール	・熱を軸として、大気の構造や大気圏内で見られる現象について理解する。	・議論 ・問題演習
	7	2節 水と気象	・相対湿度 ・雲の発生 ・降水の仕組み	・雲の発生と降水の仕組みを理解する。	
	9	第2章 太陽放射と大気海洋の運動 1節 地球のエネルギー収支 2節 大気の大循環	・太陽放射と地球放射 ・温室効果 ・熱輸送と大気循環 ・偏西風 期末考査	・エネルギー収支の考え方と、温室効果が地球環境にもたらす影響を理解する。 ・地球のエネルギー収支において大気果たす役割を理解する。 ・問題演習	・問題演習 ・議論 ・課題 ・定期考査

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	3 節 海水の循環	・海水の構造 ・深層循環	・地球のエネルギー収支において海洋が果たす役割を理解する。 ・地球のエネルギー収支において大気および海洋の循環が果たす役割を理解する。	・問題演習 ・議論 ・課題
		第3章 移り変わる地球			
		第1章 地球の誕生			
	11	1 節 宇宙の誕生	・宇宙のはじまり ・太陽の誕生	・質量や距離、熱に注目して宇宙に関する事項を理解する。	
		2 節 太陽系の誕生	・太陽系の誕生 ・太陽系天体	・太陽系の構造やそれを構成する天体について理解し、地球の成り立ちと特徴を理解する。	
		第2章 地球と生命の進化			
		1 節 先カンブリア時代	・地球のなりたち ・生命の誕生	・生物界や地球環境の変遷と地質時代の区分や時間スケールを理解する。	
		2 節 顕生代	・生命の進化 ・人類の誕生		
	12	第3章 地球史の読み方	中間考査 ・堆積構造 ・堆積岩 ・地層の読み方	・地球表層の地形や地層を観察する方法を学ぶとともに、それらの形成過程を理解する。 ・地層の観察と化石の分析によって、古環境の復元や地殻変動の経緯の推定を行う方法を理解する。	・定期考査

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境に関する概念や法則を理解し、より深い知識を身につけることで問題に対応している。地球や地球を取り巻く環境に関する事象を観察、分析するための基本的な操作を習得し、科学的に探究している。
思考・判断・表現	科学的な思考に基づいて問題を考察している。自らの考察を平易な言葉で伝えながら議論を行い、その結果を簡潔に記述している。
主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に関する既知の概念や法則を活用して、積極的に問題解決に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

地学基礎の復習も交えつつ、発展的な問題演習に取り組んでいきます。問題演習の内容は知識力を試す問題や計算問題だけではありません。地学的な問題について記述したり議論する場を設けるつもりです。単なる共通テスト対策だと思わずに、思考力や表現力を鍛えて、本当の学力を身につけていきましょう。

令和7年度 保健体育科 「体育」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 3年A組～H組
教科書	新高等保健体育	副教材等	なし

1 学習の到達目標

1, 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けられるようにする。 2, 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 3, 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	体づくり運動	体づくり運動	さまざまな健康の考え方自己の体力や生活に応じて、体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	課題カード等
	5	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン 武道 柔道 剣道	前期・後期で1種目ずつ（計2種目）を選択します。 種目の特性を理解し、自己やグループの能力に応じた課題の発見・解決を目指し、皆で協力し計画を立て、実践していきます。 運動・スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるよう、自ら進んで活動します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト
	6				
	7	水泳	水泳 泳力測定 時間泳	今ある技能、泳力を測定します。 今できる泳ぎ方でより長く泳ぐことに挑戦して水泳の楽しさや喜びを味わえるようにします。 より高度な技能の習得と、新たな泳法の習得を行い、自己の課題解決をするなど泳法の高まりに応じて競泳の仕方を工夫します。 記録に挑戦して、技能を高めます。 ・4泳法選択練習 ・キック、プル プル、コンビ、ターン練習 ・タイム測定	出欠 参加意欲・態度 時間泳距離測定 タイム測定 見学レポート
	9	体育理論	運動・スポーツの学び方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学習します。また、健康を成り立たせている要因について説明できるようにします。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン 武道 柔道 剣道	前期の選択種目と異なる種目を選択し、前期で学んだことを基礎に、種目の特性を理解し、計画や目標を立て自ら進んで学習します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト
	11				
	12				
	1				
	2	体づくり運動	体づくり運動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	出欠 課題カード等
	3				

3 評価の観点

知識・技能	選択した種目で必要とする技術、体力やその高め方、動きや改善のポイント、仲間と継続的に活発に活動するための調整の仕方等を理解し身に付けている。
思考・判断・表現	自己や仲間が継続的にスポーツと多様に関わる中で広い視野に立って課題を発見できる。自ら計画を立て実践し課題の解決に向け工夫し努力できる。その課題について思考・判断したことを言葉や動作で表現でき、理論的に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	それぞれの種目の活動を通して運動の特性を理解し、その楽しさや喜びを深く味わうことができる。公正に取り組み、互いに協力して自己の責任を果たすことができる。運動やスポーツを継続して実践できる意欲がある。

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

安全に楽しく運動することが大切です。運動するのにふさわしい指定の服装に心がけ自己の能力を最大限発揮できるよう努力しましょう。また、生涯を通じて運動に親しむことができるよう運動の方法や理論なども身につけられるようにしましょう。スキルテストで高得点を取ることが目標ではなく、様々な運動技能の発達を促すことを目指し、仲間との関わりを大切にしながら展開していきます。

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年A, D組
教科書	Joy of Music	副教材等	なし

1 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	楽典	- 音名 - 音程 - 拍子 - 調 - 音階 - 和音 - コードネーム	それぞれの項目について、プリントで学習し、演習問題を解く。	観察、プリント 筆記試験
	5	歌唱 器楽 創作 鑑賞	自由演奏	- 各個人で学習する題材を決め、取り組む。 - 正しい音程やリズムを理解し、演奏する。 - 楽曲の特徴を理解し、表現を工夫して演奏する。	観察、プリント
	6				
	7				
	9	歌唱 器楽 創作 鑑賞	前期発表会	- 前期で取り組んできた題材を発表する。 - 正しい音程やリズムを理解し、演奏する。 - 楽曲の特徴を理解し、表現を工夫して演奏する。	観察、プリント 実技試験

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	歌唱 器楽 創作 鑑賞	・自由演奏	・各個人で学習する題材を決め、取り組む。 ・正しい音程やリズムを理解し、演奏する。 ・楽曲の特徴を理解し、表現を工夫して演奏する。	観察、プリント
	11				
	12				
	1	歌唱 器楽 創作 鑑賞	・後期発表会	・後期で取り組んできた題材を発表する。 ・正しい音程やリズムを理解し、演奏する。 ・楽曲の特徴を理解し、表現を工夫して演奏する。	観察、プリント 実技試験

3 評価の観点

知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解をしている。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、様々な知識や技能を関連させどのように表すかについて独自の表現意図を深めたり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

音楽を通して豊かな表現力を身に付け、自分の感じたことを自由に表現する喜びを学んでください。表現領域（歌唱、器楽、創作）では、発表会形式の実技試験を行います。人前で自己表現する力を身に付けましょう。鑑賞では、ただ聴く・観るだけでなく、楽曲が作られた時代や作曲者の人物像を学び、それが楽曲にどう影響しているかを考えながら授業に臨んでください。

音楽は人生に彩りを与えてくれます。様々な音楽に触れ、人生を豊かにし、一緒に「音」を「楽」しみましょう。

令和7年度 芸術科 「美術Ⅲ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	3年 A・C組
教科書	美術3	副教材等	デッサン用具、アクリル絵の具セット、油絵道具

1 学習の到達目標

- 1, 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに意図に応じて表現方法を創意工夫し個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- 2, 創造的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し、構想を練ったり、自己の価値意識を高めて美術に関する見方、感じ方を深める。
- 3, 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	絵画表現 卒業制作	卒業制作に向けて	作品鑑賞 教科書、参考作品などを鑑賞ながら、現代アートや有名作品について学習し、多様なイメージの組み合わせによる絵画表現方法を理解する。	・プリント ・発言内容 ・授業態度 ・制作活動の様子 ・スケッチブック ・作品 ・鑑賞プリント
	5		本作品アイディア	イメージスケッチ 自分が表現したいもの、自身の世界観をじっくり考え、構想を練る。 構図やバランスを考えながら、自分の世界を表現できるよう作品イメージを練る。	
	6		本作品制作	イメージスケッチを基に画材を選ぶ 自分が選んだ描画材で作品制作	
	7		途中作品鑑賞	他者の作品から創造的な表現の工夫を感じ取りワークシートにまとめる。	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期後半～後期前半	9	絵画表現 卒業制作	本作品制作	自身の世界観、表現したいものを表現する。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント ・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント
	10				
	12		作品鑑賞会	生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	1	自画像 キャプション 制作	本作品制作	自画像という言葉の固定観念に囚われず、自分自身を表現する。 画材は任意とする。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント
	2		題名札の制作		
	3		作品鑑賞会	生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。	

3 評価の観点

知識・技術	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える事ができる。 ・自ら主題を生成し個性豊かに発想し構想を練っている。 ・自己の価値感を高め、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 ・感性と美意識を高め、美術文化に親しもうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

美術Ⅲの授業では美術Ⅰ美術Ⅱで学んだ事の成果を表す作品制作となります。今までの美術の授業を思い出し、自分と向き合い、何を表現したいのか、よく考えてみてください。2年間身につけた技術が無駄にせず応用していきましょう。しかし、なによりも大切なのは自分の世界観を大切にしていけることです。自分で見つけた自分なりの表現方法、自分の世界観を存分に発揮してください。

・授業内容や時間配分などは、作品の進行状況によって変更する場合があります。

令和7年度 外国語「英語コミュニケーションⅢ」シラバス

単位数	4 単位	学科・学年・学級	普通科3年A組～G組・理数科H組
教科書	ELEMENT English Communication Ⅲ（啓林館）	副教材等	共通テストリスニング分野別 10min.（エミル出版） 大学入学共通テストリーディング対策 READING HOPE（美誠社） 大学入試長文読解問題集 INTERESTING STORIES LEVEL2（旺文社） 共通テストリスニング最新版 実戦30min×8回（エミル出版）

1 学習の到達目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 学習の計画

前期学習指導計画											
月	育成する資質能力（CAN-DO記述）	学習項目 (教材名等)		評価 の 観点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
4	<Listening>社会的な事柄について、はっきりとした説明を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>社会的な事柄について、比較的平易な英語で書かれたやや短い論説文（500語程度）を読んで、グラフなどを参考にしながら、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理することができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>社会的な事柄（温室効果ガス）について、理由や例を示しながら、まとまりのある文章で自分の考えを書くことができる。 <Writing>社会的な事柄（温室効果ガス）について、理由や例を示しながら、まとまりのある文章で自分の考えを書くことができる。	Lesson 1 Energy	<聞くこと> バイオ燃料の種類についての説明を聞き取る。 <読むこと> Numbers Don't Lie: Which Is Eco-Friendly?（論説文）を読む。 <話すこと（発表）> 交通機関ごとのエネルギー消費量の違いについての論説文を読み、その内容についてリテリングを行う。 <話すこと（やり取り）> 発電方法のそれぞれのメリットとデメリットをペアで話し合い、各国の温暖化を止める取り組みについてグループで話し合う。 <書くこと> 温室効果ガスに関するグラフを読み取り、二酸化炭素の排出量を削減する方法について自分の考えを書く。	知 思 態	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	15	・定期考査 ・単語テスト ・スピーキングテスト ・ライティング課題 ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動 など	
5	<Listening>身近な事柄について、はっきりとしたニュースを聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>社会的な事柄について、比較的平易な英語で書かれたやや短い論説文（500語程度）を読んで、グラフなどを参考にしながら、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理することができる。 <Speaking(Production)>①本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。②社会的な事柄（自然保護）について、写真やグラフなどのスライドを使って発表することができる。 <Speaking(Interaction)>社会的な事柄（SDGs）について、例を示しながら、まとまりのある文章で自分の考えを書くことができる。 <Writing>社会的な事柄（SDGs）について、例を示しながら、まとまりのある文章で自分の考えを書くことができる。	Lesson 2 Environment and Life	<聞くこと> イギリスの電球の規格についてのニュースを聞き取る。 <読むこと> Environment or Orangutans?（論説文）を読む。 <話すこと> ①バイオ燃料のメリットとデメリットについての論説文を読み、その内容についてリテリングを行う。②オランウータンの保護についてプレゼンテーションを行う。 <書くこと> 環境に関するSDGsへの興味の度合いを表すグラフの特徴を読み取り、SDGsを促進する方法について自分の考えを書く。	知 思 態	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	15		
	中間考査			知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		

6	<Listening>身近な事柄について、はっきりとした会話やアナウンスを聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>社会的な事柄について、比較的平易な英語で書かれたとても短い2つの論説文（各300語程度）を読み比べて、概要や詳細を理解したり、書き手の主張や目的を判断することができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>身近な事柄（健康）について、理由や例を示しながら、まとまりのある文章で自分の考えを書くことができる。 <Writing>身近な事柄（健康）について、理由や例を示しながら、まとまりのある文章で自分の考えを書くことができる。	Lesson 3 Preconception	〈聞くこと〉弱冷房車についてのアナウンスを聞き取る。 〈読むこと〉Sleeping（ダブルパッセージ）を読む。 〈話すこと（発表）〉睡眠時間の不足によって引き起こされる健康被害についてのダブルパッセージを読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと（やり取り）〉日本人の睡眠時間の現状とその理由、SDGs との関連について、ペアで話し合う。 〈書くこと〉健康のためにすべきこと・すべきでないことについての話し合いをもとに、どのように健康的な生活を送るかにについて、自分の考えを書く。	知	○	○	○	○	○	15
				思	○	○	○	○	○	
				態	○	○	○	○	○	
	<Listening>社会的な事柄について、はっきりとした説明を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>社会的な事柄について、比較的平易な英語で書かれたとても短い2つの論説文（各300語程度）を読み比べて、概要や詳細を理解したり、書き手の主張や目的を判断することができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>身近な事柄（インターネットの影響）の良い点と悪い点について、自分の考えや意見を、理由をつけて伝え合うことができる。 <Writing>身近な事柄（コミュニケーションの方法）について、理由や例を示しながら、まとまりのある文章で自分の考えを書くことができる。	Lesson 4 Humans and Technology	〈聞くこと〉AI に関するイベントの説明を聞き取る。 〈読むこと〉The Digital-Era Brain: Damaged or Improved?（ダブルパッセージ）を読む。 〈話すこと（発表）〉デジタル化によって変わる人間の記憶力についてのダブルパッセージを読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと（やり取り）〉インターネットの良い点・悪い点について、多様な観点からグループで話し合う。 〈書くこと〉対面とオンラインでのコミュニケーションを比較し、コミュニケーション技術が人をより孤独にするかどうかについて、自分の考えを書く。	知	○	○	○	○	○	15
				思	○	○	○	○	○	
				態	○	○	○	○	○	
	<Reading>身近な事柄について書かれた長い物語文（1,600語程度）を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解することができる。 <Speaking(Interaction)>身近な事柄（読んだ物語文）について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。	Pleasure Reading 1 San Fairly Ann	〈読むこと〉San Fairly Ann（物語文）を読む。 〈話すこと（やり取り）〉読んだ英文で最も印象に残った場面や部分について、ペアで話し合う。	知		○	○			6
				思		○	○			
				態		○	○			
7	<Listening>明瞭なやや短い講義を聞いて、必要な情報を理解することができる。 <Reading>英語で書かれた短い説明文を読んで、概要や要点を理解することができる。 <Writing>読んだり聞いたりした情報を整理して、簡単な語句や表現を使ってメモを取ったり、自分の気持ちを書くことができる。	Communication in Practice 1	〈聞くこと〉美術館のワークショップに参加し、レンブラントの絵画についての講義を聞き取る。 〈読むこと〉レンブラントの絵画についての講義の配布物を読む。 〈書くこと〉レンブラントの絵画に関する講義で読んだり聞いたりした内容についてメモを取り、美術館のウェブページにコメントを書く。	知	○	○			○	9
				思	○	○			○	
				態	○	○			○	
9	<Listening>社会的な事柄について、講演を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>社会的な事柄について書かれた説明文（700語程度）を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理することができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を詳しく伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>社会的な事柄（家事労働時間の男女差）について、挿絵やグラフを見ながら、自分の考えや意見を、理由をつけて詳しく伝え合うことができる。 <Writing>社会的な事柄（多様性）についての英文を読み、理由を示しながら、まとまりのある文章で、自分の考えを詳しく書くことができる。	Lesson 5 Diversity	〈聞くこと〉多様性についての講演を聞き取る。 〈読むこと〉Emoji-The Language of the Online World（説明文）を読む。 〈話すこと（発表）〉多様性がどのように絵文字に反映されてきたかについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと（やり取り）〉イラストが表す内容や、性差による家事労働時間の違いとその理由について、ペアで話し合う。 〈書くこと〉講演の案内を読んだ、多様性を尊重する社会にするために、どちらの講演内容がより役立つかにについて、自分の考えを書く。	知	○	○	○	○	○	15
				思	○	○	○	○	○	
				態	○	○	○	○	○	
	期末考査			知		○			○	4
				思		○			○	
				態		○			○	

後期学習指導計画

月	育成する資質能力（CAN-DO記述）	学習項目 (教材名等)		評価の 観点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
10	<Listening>身近な事柄について、会話を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>身近な事柄について書かれたやや長いエッセイ（1,000 語程度）を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理することができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を詳しく伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>身近な事柄（留学方法）について、自分の役割に従いながら、自分の考えや意見を、理由をつけて詳しく伝え合うことができる。 <Writing>身近な事柄（大学進学の意味）について、理由を示しながら、まとまりのある文章で、自分の考えを詳しく書くことができる。	Lesson 6 Education	<聞くこと> アメリカの大学教授から出された課題について、教授と生徒の会話を聞き取る。 <読むこと> A Class from Stanford University（エッセイ）を読む。 <話すこと（発表）> 問題の創造的な解決法についてのエッセイを読み、その内容についてリテリングを行う。 <話すこと（やり取り）> オンライン大学と海外留学のメリットとデメリットを比較し、ロールプレイで相手を説得する。 <書くこと> 大学へ進学する理由について自分の考えを書く。	知	○	○	○	○	○	15	
				思	○	○	○	○	○		
				態	○	○	○	○	○		
11	<Listening>身近にある科学的な事柄について、説明を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>科学的な事柄について書かれた説明文（700 語程度）を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、書き手の主張や目的を判断することができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を詳しく伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>社会的な事柄（バイオミメティクス）について、自分の考えや意見を、理由をつけて詳しく伝え合うことができる。 <Writing>社会的な事柄（社会支援プロジェクト）についての英文を読み、理由を示しながら、まとまりのある文章で、自分の考えを詳しく書くことができる。	Lesson 7 Miracles of Nature	<聞くこと> 自然について、インターネットで見つけた説明を聞き取る。 <読むこと> Not All Eggs Are Created Equal（説明文）を読む。 <話すこと（発表）> 鳥の卵の形が異なる理由についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 <話すこと（やり取り）> 生物の持つ驚くべき能力の中から、どのような能力を人間社会に生かしたらよいかについて、ペアで話し合う。 <書くこと> ある会社の社会支援プロジェクト案を読んで、どちらの案を推し進めるべきかについて自分の考えを書く。	知	○	○	○	○	○	15	・定期考査 ・単語テスト ・スピーキング テスト ・ライティング課題 ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動 など
				思	○	○	○	○	○		
				態	○	○	○	○	○		
11	<Listening>身近で社会的な事柄について、説明を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>科学的な事柄について書かれたやや長い説明文（1,000 語程度）を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、書き手の主張や目的を判断することができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を詳しく伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>社会的な事柄（食品廃棄物）について、グラフを参考にしながら、自分の考えや意見を、理由をつけて詳しく伝え合うことができる。 <Writing>身近な事柄（今と昔の生活の違い）について、理由や例を示しながら、まとまりのある文章で、自分の考えを詳しく書くことができる。	Lesson 8 Sustainable Development	<聞くこと> 食べ物の保存方法についてのプレゼンテーションを聞き取る。 <読むこと> The Present and Future of FoodTech（説明文）を読む。 <話すこと（発表）> 技術革新による食品業界の変化についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 <話すこと（やり取り）> 食品廃棄物が生まれる理由を考え、問題解決のために自分には何ができるかについて、ペアで話し合う。 <書くこと> 昔と今の生活を比較して、科学技術によって私たちの生活がより環境に優しいものになったかについて、自分の考えを書く。	知	○	○	○	○	○	15	
				思	○	○	○	○	○		
				態	○	○	○	○	○		
	<Reading>身近な事柄について書かれた長い物語文（1,600 語程度）を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解することができる。 <Speaking(Interaction)>身近な事柄（読んだ物語文）について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。 <Listening>明瞭なやや短い説明と講義を聞いて、必要な情報を理解することができる。 <Speaking(Interaction)>科学的な事柄（動物）について、短い文や簡単な表現を使って、準備しなくても自分の考えを伝えることができる。 <Writing>聞いた情報を整理して、簡単な語句や表現を使ってメモを取ることができる。	Pleasure Reading 2 An Alien Megastructure?	<読むこと> San Fairy Ann（物語文）を読む。 <話すこと（やり取り）> 読んだ英文で最も印象に残った場面や部分について、ペアで話し合う。 <聞くこと> オープンキャンパスで、動物の捕食行動の違いについてのテレビ番組の説明と講義を聞き取る。 <話すこと（やり取り）> 動物の捕食行動の違いについて聞いた後、ほかの動物の例と比較しながら、生存率への影響について話し合う。 <書くこと> 動物の捕食行動の違いに関するテレビ番組の説明と講義で聞いた内容についてメモを取る。	知		○	○			6	
				思		○	○				
				態		○	○				
		Communication in Practice 2	<聞くこと> オープンキャンパスで、動物の捕食行動の違いについてのテレビ番組の説明と講義を聞き取る。 <話すこと（やり取り）> 動物の捕食行動の違いについて聞いた後、ほかの動物の例と比較しながら、生存率への影響について話し合う。 <書くこと> 動物の捕食行動の違いに関するテレビ番組の説明と講義で聞いた内容についてメモを取る。	知	○			○	○	9	
				思	○			○	○		
				態	○			○	○		

#	<Listening>社会的な事柄について、会話を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>身近な事柄について書かれた物語文(700 語程度)を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、行間を読むことができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を詳しく伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>身近な事柄(読んだ物語)について、場面に合う表現を使って、登場人物の考えや気持ちを伝え合うことができる。 <Writing>身近な事柄(音楽を聞きながらの勉強)について、理由を示しながら、まとまりのある文章で、自分の考えを詳しく書くことができる。	Lesson 9 Art and Heart	<聞くこと>公共物への落書きは芸術か破壊行為かについて、先生同士の会話を聞き取る。 <読むこと>Praying Hands(物語文)を読む。 <話すこと(発表)>有名な絵画にまつわる物語文を読み、その内容についてリテリングを行う。 <話すこと(やり取り)>読んだ英文の一場面を描いた脚本を完成させ、ロールプレイを行う。 <書くこと>音楽を聞きながら勉強することに対する賛成意見と反対意見を考え、それに対する自分の考えを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15
	<Listening>社会的な事柄について、説明を聞いて簡単なメモを取り、概要や詳細を聞き取ることができる。 <Reading>身近な事柄について書かれたやや長い物語文(1,000 語程度)を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、行間を読むことができる。 <Speaking(Production)>本文に関連する写真やキーワードなどを活用して、話の要点を詳しく伝えることができる。また、それに対する感想や考えを表現することができる。 <Speaking(Interaction)>身近な事柄(高校時代の思い出)に関する質問について、準備なくとも自分の考えや気持ちを答えることができる。 <Writing>身近な事柄(新聞への投稿)について、理由や例を示しながら、まとまりのある文章で、自分の気持ちを詳しく書くことができる。	Lesson 10 Human Relationships	<聞くこと>人間の社会的ネットワークの仕組みについて、インターネットで見つけた説明を聞き取る。 <読むこと>All the Good Things(物語文)を読む。 <話すこと(発表)>ある教師と生徒たちの忘れがたい思い出についての物語文を読み、その内容についてリテリングを行う。 <話すこと(やり取り)>高校生活で思い出に残ったイベントについて話し合い、ロールプレイで相手にインタビューを行う。 <書くこと>高校生活を振り返り、感謝をしている相手について、どのようなところに感謝をしているのか、象徴的なエピソードを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15
	中間考査			知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4
	1	<Reading>社会的な事柄について書かれた長い説明文(1,400 語程度)を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解することができる。 <Speaking(Interaction)>社会的な事柄(読んだ説明文)について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。	Pleasure Reading 3 Sapiens—The Cognitive Revolution: How We Parted from Chimpanzees	<読むこと>Sapiens -The Cognitive Revolution: How We Parted from Chimpanzees(説明文)を読む。 <話すこと(やり取り)>読んだ英文で最も印象に残った場面や部分について、ペアで話し合う。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	6

評価の観点	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
知識・技能	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。	[知識]英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能]コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
評価の方法		①定期考査②エッセイライティング③ワークシート記述欄④授業内活動などを上記3観点に基づき、総合的に評価します。普通科と理数科の評価方法は違います。			
担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)		辞書は毎回必ず持参しましょう。予習よりも復習の方が大切です。			

令和7年度 外国語 「論理・表現Ⅲ」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 3年A組～H組
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ (桐原書店)	副教材等	ランダムチェック The Reflex(桐原書店) 及び総合英語 be 4th edition (いっずな書店)

1 学習の到達目標

「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」を中心とした発信能力を養う。

2 学習の計画

前期学習指導計画									
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の観点	領域				
					聞	読	取	発	書
4	AIに将来取って代わられない職業について話し合うことができる。 AIに将来取って代わられない職業について意見を述べるパラグラフを書くことができる。 AIに将来取って代わられない職業についてプレゼンテーションをすることができる。	Unit1 Future of jobs in the AI era	〔話題〕 AIと将来の目標 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕本課のトピックについてさらにリサーチを行い、リサーチプレゼンテーションを行う。 〔話すこと(やり取り)〕「AIに将来取って代わられない職業は何か」について議論する。 〔書くこと〕意見型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	 ○
	自身が成長した経験について話し合うことができる。 自身が成長した経験について描写するパラグラフを書くことができる。 自身が成長した経験についてスピーチをすることができる。	Unit2 How have you grown as a person in your high school life?	〔話題〕 学校生活 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕本課のトピックについてスピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕自身が人として成長するのに役立った出来事について議論する。 〔書くこと〕説明・描写型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	 ○
	ニュースサービスの利用状況のグラフについて話し合うことができる。 ニュースサービスの利用状況のグラフを説明するパラグラフを書くことができる。 ソーシャルメディアの問題点についてディスカッションをすることができる。	Unit3 How do people use different types of media?	〔話題〕 ニュースサービスの利用 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕フォーマルディスカッションを行う。 〔話すこと(やり取り)〕ニュースサービスの利用状況のグラフについて議論する。 〔書くこと〕グラフ説明型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	 ○
	中間考査			知 思 態	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○
6	環境保護の方法を見つけるために、3Rの特徴について話し合うことができる。 環境保護の方法を見つけるために、3Rの特徴を比較するパラグラフを書くことができる。 人々が環境保護のためにできることについてスピーチをすることができる。	Unit4 3R approach in order to save the environment	〔話題〕 3Rと環境保護 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕環境保護の方法を見つけるために3Rの特徴を比較しながら議論する。 〔書くこと〕比較・対比型(比較)のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	 ○
	キャッシュレス決済の普及の原因とその利点について話し合うことができる。 キャッシュレス決済の普及の原因とその利点を示すパラグラフを書くことができる。 キャッシュレス決済の普及の原因とその利点についてスピーチをすることができる。	Unit5 Moving toward a cashless society	〔話題〕 キャッシュレス決済 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕キャッシュレス決済の普及の原因とその利点について議論する。 〔書くこと〕原因・結果型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	 ○
	食品添加物の摂取について話し合うことができる。 食品添加物の摂取について賛否の意見を述べるパラグラフを書くことができる。 食品添加物の摂取についてディベートをすることができる。	Unit6 Are food additives really bad for us?	〔話題〕 食品添加 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕すべての食品添加物を避けるべきかについて議論する。 〔書くこと〕意見型(賛否)のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	 ○
	期末考査			知 思 態	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○

後期学習指導計画									
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価 の 観 点	領域				
					聞	読	取	発	書
10	日本文化を多角的に説明する方法について話し合うことができる。 日本文化を多角的に説明しながら紹介するパラグラフを書くことができる。 日本文化を多角的に説明しながら紹介するスピーチをすることができる。	Unit7 Japanese culture attracting people all over the world	〔話題〕日本文化 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕他国の人を魅了する日本文化の1つを描写する方法について議論する。 〔書くこと〕説明・描写型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	8
11	エネルギー構成比を示すグラフについて話し合うことができる。 エネルギー構成比を示すグラフを説明するパラグラフを書くことができる。 エネルギー構成比を示すグラフについてスピーチをすることができる。	Unit8 Will we live in a decarbonized society in the future?	〔話題〕脱炭素社会 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕エネルギー構成比を示すグラフからわかることについて議論する。 〔書くこと〕グラフ説明型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	8
12	電子教科書と紙の教科書の違いについて話し合うことができる。 電子教科書と紙の教科書を対比するパラグラフを書くことができる。 電子教科書と紙の教科書の違いについてスピーチをすることができる。	Unit9 Reading e-books or printed books?	〔話題〕電子教科書と紙の教科書 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕両者の学習上の利点について議論する。 〔書くこと〕比較・対比型(対比)のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	8
後期中間				知 思 態	 ○	 ○	 ○	 ○	4
1	社会的な差別の問題とその解決方法について話し合うことができる。 社会的な差別の問題とその解決方法を示すパラグラフを書くことができる。 社会的な差別の問題とその解決方法についてスピーチをすることができる。	Unit10 The way we live together in the same world	〔話題〕社会的な差別の問題 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕どうすれば社会的な差別をせずに人と付き合うことができるかについて議論する。 〔書くこと〕問題解決型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	8
	少子化について、その原因と結果を説明するパラグラフを書くことができる。 少子化について、複数のパラグラフで問題と解決策を説明するエッセイを書くことができる。	What can we do about our shrinking population?	〔話題〕少子化 〔聞くこと〕会話を聞きながら、概要を理解するためにメモを取る。 〔話すこと(発表)〕スピーチを行う。 〔話すこと(やり取り)〕日本の少子高齢化について論じている文章を読み、パートナーとあるいはグループで議論する。 〔書くこと〕原因・結果型のパラグラフを書く。	知 思 態	○ ○	 ○	 ○	 ○	8

評価の観点	観点の趣旨
知識・技能	〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 〔技能〕 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
評価の方法	上記の観点から評価規準に従い、以下の評価対象などを総合的に評価します。 普通科と理数科の評価方法は異なります。 【評価対象】 (a) 授業中の活動への取り組み状況 (b) 小テスト・定期考査等のペーパーテスト (c) スピーチ・プレゼンテーション・ディベート等のパフォーマンステスト (d) ノート・レポート等の提出物
担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)	・英語でコミュニケーションをする時に大切なことは、積極的な姿勢を持ち続けることです。間違いを恐れず、間違いから学ぶ気持ちを持って表現しましょう。 ・より円滑にコミュニケーションができるよう、単語や表現を覚え、文法や言葉の働きを学びましょう。そのためには、できるだけたくさんのかんことを吸収しようという意欲と反復練習が大切です。 ・文法の授業では、予習、復習を怠らないようにしましょう。予習では参考書を活用しましょう。 ・学んだ英語を実際に書いたり話したりする機会を大切に、クラスメートとたくさんコミュニケーションをとることによって英語を身につけましょう。

令和7年度 外国語「英語研究α」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科第3 学年A組(40名)・B組(40名)・C組(40名)・D組(8名)
教科書		副教材等	① World Heritage on DVD (南雲堂) ② Reach 40 (美誠社)

1 学習の到達目標

- ①既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。
②様々な分野の英文を読み、入試に不可欠な速読力を身につけることができるようになる。

2 学習の計画

前期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価 の 観 点	領域					評価 項 目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
4	既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。	Unit 1 Statue of Liberty	「World Heritage on DVD」 ビデオの音声を聴いて、内容の要点を把握する力を養います。	知	○	○	○			9	・ペアワークなどの取り組み状況 ・演習問題への取り組み状況 ・教師の発問に対する応答 ・提出物 ・小テスト ・定期考査に準じたテスト などを評価の対象とします。
5		Unit 2 Forbidden City									
		Unit 3 Bath									
		Unit 4 Canadian Rockies									
		Unit 5 The Pyramids									
中間考査				知						0	
				思							
				態							
6	既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。	Unit 6 Ayutthaya	「World Heritage on DVD」 ビデオの音声を聴いて、内容の要点を把握する力を養います。	知	○	○	○			9	・ペアワークなどの取り組み状況 ・演習問題への取り組み状況 ・教師の発問に対する応答 ・提出物 ・小テスト ・定期考査に準じたテスト などを評価の対象とします。
7		Unit 7 Edinburgh									
		Unit 8 Machu Picchu									
9	期末考査				知					0	
				思							
				態							

後期学習指導計画											
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)
					聞	読	取	発	書		
10	既習語彙を使用し、外国語による聞くこと、読むこと、話すことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する。	Unit 9~14 Taj Mahal、Te Wahipounamuなど Reach 40 第1～16回	「World Heritage on DVD」 ビデオの音声を聴いて、内容の要点を把握する力を養います。 「Reach 40」 共通テスト英語模擬演習をやります。時事的な問題、一般常識などが問われるような内容を、時間を設定し速く読む訓練をします。文法・単語の知識だけでなく、世界で何が起きているか、様々な問題に対してどんな意見があるのか、などについての知識が、英語の読解が必要になることを実感してください。	知	○	○	○			9	・ペアワークなどの取り組み状況 ・演習問題への取り組み状況 ・教師の発問に対する応答 ・提出物 ・小テスト ・定期考査に準じたテスト などを評価の対象とします。
11				思	○	○	○				
12				態	○	○	○				
	中間考査			知						0	
				思							
				態							

評価の観点	観点の趣旨
知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
思考・判断・表現	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。また、英語で話して情報や考えなどを適切に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。

評価の方法	関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の3観点から評価規準に従い、総合的に評価します。
-------	--

担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)	① 小テストをこまめに行いますので、欠席しないように。 ② Reach40のテキストは、後期のはじめに配布します。 ③ 定期考査に準じたテストを授業中に行いますので、欠席しないように。追試になります。
--	--

令和7年度 外国語「英語研究β」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科第3学年 A組(13名)・B組(5名)・C組(7名)
教科書		副教材等	CNN Comprehensive Trainer 2025 (朝日出版社) CNN Comprehensive Trainer 2025 提出ノート (朝日出版社)

1 学習の到達目標

「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、「聞くこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力をさらに強化するための発展的な活動に行くとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 学習の計画

前期学習指導計画									
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価 の 観 点	領域				
					聞	読	取	発	書
4	スポーツにおける男女平等について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 スポーツにおける男女平等について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 スポーツにおける男女平等について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	News 1	〈聞くこと〉スポーツにおける男女平等について聞き取る。 〈話すこと〉スポーツにおける男女平等についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉スポーツにおける男女平等に関連する内容について書く。	知	○	○			
				思			○		
				態	○	○	○		
	言葉の壁について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 言葉の壁について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 言葉の壁について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	News 2	〈聞くこと〉言葉の壁について聞き取る。 〈話すこと〉言葉の壁についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉言葉の壁に関連する内容について書く。	知	○	○			
5	都市開発について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 都市開発について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 都市開発について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	News 3	〈聞くこと〉都市開発について聞き取る。 〈話すこと〉都市開発についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉都市開発に関連する内容について書く。	知	○	○			
				思			○		
				態	○	○	○		
	ウクライナにおける女性の仕事について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解する。 ウクライナにおける女性の仕事について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝える。 ウクライナにおける女性の仕事について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現する。	News 4	〈聞くこと〉ウクライナにおける女性の仕事について聞き取る。 〈話すこと〉ウクライナにおける女性の仕事についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉ウクライナにおける女性の仕事に関連する内容について書く。	知	○	○			
6	環境科学について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 環境科学について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 環境科学について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	News 5	〈聞くこと〉環境科学について聞き取る。 〈話すこと〉環境科学についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉環境科学に関連する内容について書く。	知	○	○			
				思			○		
				態	○	○	○		
	健康について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 健康について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 健康について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	News 6	〈聞くこと〉健康について聞き取る。 〈話すこと〉健康についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉健康に関連する内容について書く。	知	○	○			
7	気候変動について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 気候変動について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 気候変動について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 7	〈聞くこと〉気候変動について聞き取る。 〈話すこと〉気候変動についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉気候変動に関連する内容について書く。	知	○	○			
				思			○		
				態	○	○	○		
	誤情報について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 誤情報について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 誤情報について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 8	〈聞くこと〉誤情報について聞き取る。 〈話すこと〉誤情報についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉誤情報に関連する内容について書く。	知	○	○			
				思			○		
				態	○	○	○		

・ワークシート
・発表原稿
・文法ワークブックなどの提出物

・パフォーマンスの内容や態度

・ワークシート
・発表原稿
・文法ワークブックなどの提出物

・パフォーマンスの内容や態度

後期学習指導計画									
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域				
					聞	読	取	発	書
9	アレルギーについて書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 アレルギーについて、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 アレルギーについて、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 9	〈聞くこと〉アレルギーについてを聞き取る。 〈話すこと〉アレルギーについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉アレルギーに関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	6
10	人種問題について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 人種問題について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 人種問題について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 10	〈聞くこと〉人種問題についてを聞き取る。 〈話すこと〉人種問題についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉人種問題に関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	6
11	ソーシャルメディアについて書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 ソーシャルメディアについて、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 ソーシャルメディアについて、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 11	〈聞くこと〉ソーシャルメディアについてを聞き取る。 〈話すこと〉ソーシャルメディアについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉ソーシャルメディアに関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	6
12	AI技術について書かれた文章を読んで、適切に内容を理解することができる。 AI技術について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を詳しく書いて伝えることができる。 AI技術について、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、言葉で表現することができる。	Lesson 12	〈聞くこと〉AI技術についてを聞き取る。 〈話すこと〉AI技術についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。関連する内容について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉AI技術に関連する内容について書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	6

評価の観点	観点の趣旨
知識・技能	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
思考・判断・表現	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。また、外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。

評価の方法	上記の観点から評価基準に従い、以下の評価対象などを総合的に評価します。 (a) 小テスト等のペーパーテスト (b) スピーチ・プレゼンテーション・ディベート等のパフォーマンステスト (c) ノート・ワークブック・レポート等の提出物を含む、授業での活動への取り組み状況
-------	--

担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)	・英語でコミュニケーションをとるときには、積極的な姿勢を持ち続けることが大切です。間違いを恐れず、間違いから学ぶ気持ちを持って表現しましょう。 ・英語で実際に書いたり話したりする機会を大切にし、クラスメイトとたくさんコミュニケーションをとることを通して、より高度な英語力を身につけましょう。
--	--

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 3年選択
教科書	家庭基礎（自立・共生・創造）東京書籍	副教材等	なし

1 学習の到達目標

- (1)家庭や地域の生活を主体的に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付ける。
 (2)家庭や地域における生活が充実向上するために必要な思考を身に付けるとともに、実習を通して獲得する技能を、生活の中で活用する力を身に付ける。
 (3)家庭や地域の生活を見つめ、主体的に問題を見出し、これを改善・充実しようとする実践的な態度を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	「生活表現」の学習について	「生活表現」のオリエンテーション	・「生活表現」を学ぶにあたって、学習の意義や内容・授業の進め方・評価方法を理解する。	学習プリント
	5	被服材料の基本	繊維製品の種類と特徴 性能 布	・布（織物）の扱い方、手縫いの基礎、ミシン縫いの基礎などの基本的な技術を学びながら作品を製作する。	製作工程の理解 製作作業工程 課題作品 授業態度
	6	作品製作①	刺しゅうの種類と特徴	・刺しゅうの種類と特徴について学び、創造的な製作と服飾への活用に取り組む。	製作工程の理解
	7	手芸の種類と特徴	各種手芸の技法	・布（織物）の扱い方、手縫いの基礎、ミシン縫いの基礎などの基本的な技術を学びながら作品を製作する。 ・持続可能な社会を作り上げていくために環境問題の観点からも作品製作について考える。	製作作業工程 課題作品
	8	作品製作②	各種手芸の技法	・布（織物）の扱い方、手縫いの基礎、ミシン縫いの基礎などの基本的な技術を学びながら作品を製作する。	授業態度
	9				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	染色	染色の種類と特徴	・染色の技法について、基礎的な知識について理解し、関連する技術を身に付ける。 ・染色技法の製作工程や表現効果について課題を発見し、その解決に向けて考察する。 ・染色の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ創造的に取り組む。	製作工程の理解 製作作業工程 課題作品 授業態度
	11	作品製作③	布を使った生活の工夫	・美的価値が高い作品製作及び合理的な作品製作のための課題を考察し、表現する。	製作工程の理解 製作作業工程
	12			・手芸作品について自ら学び、創造的な製作と活用に主体的かつ協働的に取り組む。 ・学んだ手芸技法を用いて、創造的な作品製作に取り組む。	課題作品 授業態度 製作作業工程 課題作品 発展学習 学習プリント 製作作業工程 課題作品 授業態度
	月		学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1			・持続可能な社会を作り上げていくために、環境問題の観点からも手芸製作について考える。	学習プリント

3 評価の観点

知識・技能	被服材料の種類、被服製作、染色に必要な知識を学び、その基本的な技術を身に付けている。
思考・判断・表現	被服製作を通して家庭や地域の生活が充実向上するために必要な思考を身に付けるとともに、授業を用いて自己表現ができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	布を使った生活の工夫について自ら学び、創造的な製作と生活への活用に主体的かつ協働的に取り組む力を身に付けている。

4 評価の方法

・知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- ・一年を通して実習が主になります。欠席・忘れ物をしないように心がけましょう。
- ・「家庭基礎」で学んだ内容を基礎として「生活表現」では、自分らしさを積極的に表現し製作の楽しさを味わいましょう。
- ・「生活表現」での学習を通して、日々の生活をより豊かに楽しく営める力を育んでくれることを期待しています。

令和7年度 理数「理数探究」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・3年次・G組 (SSH) 理数科・3年次・H組
教科書	理数探究基礎 (数研出版)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。 (2)多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。 (3)様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1. ガイダンス 2. 研究計画の設定	・自ら計画し、実験やポスター作成、論文作成を行う。	・学習の目標を明確に理解させる。 ・課題研究の計画を立案し、実験方法を理解させる。	出席状況、学習に取り組む意欲・態度等の評価、発表の内容等の評価を総合的に判断し、学年末に評価する。
	5	3. 課題研究講座 (1)ポスター作成 (2)論文作成	・科学的、数学的に考察し、処理する能力を育てる。	・実験をとおして、科学的に考察・処理する能力を育成する。	
	6	(3)実験計画と実験実施	・研究内容を相手に伝える技術・表現する技術の修得	・仮説を立てて検証しながら研究を進める。 ・第三者に自らの研究内容を簡潔かつ的確に伝えられるようにする。	
	7	4. 分野指導	・探究に必要な基礎知識の修得とその応用	・物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力をもとに発展・応用的に学問を扱う。	
	9	期末考査		・実験をとおして、科学的に考察・処理する能力を育成する。	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	5. 分野指導	・探究に必要な基礎知識の修得とその応用	・物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて基礎学力の向上を図る。	出席状況、学習に取り組む意欲・態度、レポート等提出物の評価、発表の内容等の評価を総合的に判断し、学年末に評価する。
	11			・基礎学力をもとに発展・応用的に学問を扱う。	
	12			・実験をとおして、科学的に考察・処理する能力を育成する。	
	1			・英語購読を通して複合的、多角的に探究する。	

3 評価の観点

知識・技能	自然や科学技術に関して観察、実験などの探究的な活動を通じて習得した探究の方法を用いる。研究の実施や報告書の作成を通して、研究において独自性が重要であることに気付き、創造的な思考力を培おうとしている。
思考・判断・表現	仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、推論など探究の方法にしたがって研究を進めている。
主体的に学習に取り組む態度	探究の方法を用いて研究を行う過程で、設定した課題を科学的に解決する方法を見いだす能力と態度を培おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

この授業は広い視野に立った物事の理解と研究計画の伸長を目標としています。試験はありませんが、その分、課題(報告書作成・提出を含む)やプレゼンテーションに取り組む姿勢が重視されます。多様な対象への関心を高め、意欲的かつ積極的に取り組んでください。
--

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

単位数	4 単位	学科・学年・学級	理数科 3 年次 H 組
教科書	数学Ⅲ, 数学C (数研出版)	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C (数研出版)

1 学習の到達目標

数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを的確に活用する態度を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	取り扱う関数を分数関数や無理関数に広げて関数概念の理解を一層深め、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察できるようにする。また、合成関数や逆関数の意味を理解し、多項式関数、分数関数や無理関数などを用いて、合成関数や逆関数の求め方を身に付ける。	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	5	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 4. 関数の極限 5. 三角関数と極限 6. 関数の連続性	数列の極限について、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求められる方法を考察できるようにする。また、無限等比級数の収束、発散についても理解する。 多項式関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の関数値の極限を求めることができるようにする。また、関連して関数の連続性について理解する。	・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
		第5章 微分法	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数	微分の公式を発展させ、和、差、積、商及び合成関数、逆関数の微分法を理解できるようにする。 多項式関数だけでなく、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解する。	
			中間考査		
	6	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用	4. 第 n 次導関数 5. 関数のいろいろな表し方と導関数 1. 接線と法線 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数の最大と最小 5. 関数のグラフ 6. 方程式、不等式への応用	さまざまな関数について、接線の方程式を求めたり、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいいたりできるようにするとともに、関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決する力を養う。	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	7	第2節 速度と近似式	7. 速度と加速度 8. 近似式	微分法の有用性を認識できるよう、微分法を速度・加速度などの考察に活用できるようにする。	・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	9		期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第5章 積分法 第1節 不定積分	1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. いろいろな関数の不定積分	積分法の基本的な性質や置換積分法及び部分積分法について理解できるようにする。また、微分法の公式からいろいろな関数の不定積分の公式を導き、不定積分を求め方を学ぶ。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	11	第2節 定積分	5. 定積分とその基本性質 6. 定積分の置換積分法 7. 定積分の部分積分法 8. 定積分の種々の問題 定積分で表された関数	いろいろな関数の定積分が求められるようにする。また、定積分と和の極限の関係を理解し、いろいろな問題に活用できるようにする。	
		第6章 積分法の応用	1. 面積 2. 体積 3. 曲線の長さ 4. 速度と道のり	積分法の有用性を認識し、図形の面積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。	
		数学C 第3章 複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式と乗法、除法 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 円と分点	複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商の幾何学的な意味を理解できるようにし、図形の移動などと関連付けて複素数の演算などの意味を考察する力を養う。	
		第4章 式と曲線	1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式 9. コンピュータと いろいろな曲	幾何学的な定義に基づいて導き出された2次曲線の方程式とその概形について考察し、2次曲線の基本的な性質を理解できるようにするとともに、解析幾何学的方法についての理解を深める。 曲線を表す式として媒介変数を用いた式や極方程式を理解できるようにし、それらを具体的な事象の考察に活用する力を養う。	
	1	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが多くなるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

単位数	3単位	学科・学年・学級	理数科 3年次 H組
教科書	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、 数学B、数学C（数研出版）	副教材等	入試必修問題集 精練 1stEdition 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B + 数学C（ベクトル）（啓林館/河合塾）

1 学習の到達目標

- 1 数学C「ベクトル」について基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深める。
- 2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bについて必要事項を補い、総合的に理解を深める。
- 3 数学の基礎力を固め、入試に対応できる実践力を身につける。
- 4 論理的に思考し、問題を解決する能力を身につける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算	1 平面上のベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積	平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	5	第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 ベクトル方程式	ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を養う。	・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	6	第2章 空間のベクトル	1 空間の座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 座標空間における図形	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。	
	7	数学Ⅰ 第1章 方程式と不等式	式の計算、実数、絶対値、1次不等式	数学Ⅰ・A・Ⅱの内容を、教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習する。 （特に重点的に復習する内容） 「方程式と不等式」に関して ・絶対値を含む方程式・不等式 ・不等式を満たす整数の個数	
	8	第2章 集合と論証	集合、命題と論証	「集合と論理」に関して ・必要条件・十分条件に関する問題	
	9	中間考査	中間考査		
	10	数学Ⅰ 第3章 2次関数	2次関数のグラフ、2次関数の最大と最小、2次方程式、2次不等式	「2次関数」に関して ・定義域に制限のある2次関数の最大・最小 ・2次関数のグラフとx軸の共有点	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	11	第4章 図形と計量	三角比の相互関係、正弦定理、余弦定理、三角形の面積	「図形と計量」に関して ・三角形の内接円に関する問題 「データの分析」に関して ・箱ひげ図 ・相関係数	
	12	第5章 データの分析	代表値、四分位範囲、分散と標準偏差、相関係数、仮説検定の考え方		
	1	数学A 第1章 場合の数と確率	順列・組合せ、和事象・余事象の確率、独立試行、反復試行、条件つき確率	「場合の数と確率」に関して ・同じものを含む順列・組分けの問題 ・条件つき確率	
	2	第2章 図形の性質	三角形の重心・外心・内心、チェバの定理・メネラウスの定理、円に内接する四角形、円と接線、方べきの定理	「図形の性質」に関して ・チェバの定理、メネラウスの定理	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	8	数学Ⅱ 第1章 式と証明	整式の除法、分式、恒等式、相加平均と相乗平均の関係	(特に重点的に復習する内容) 「式と証明」に関して ・相加平均と相乗平均の関係 ・2次方程式の解と係数の関係に関する問題	・定期考査 (主・思・知) ・提出物(主)
	9	第2章 複素数と方程式	複素数、2次方程式の解、剰余の定理、因数定理、高次方程式 期末考査	「高次方程式」に関して ・剰余の定理を用いる余りの問題 ・高次方程式の虚数解	
後期	10	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式	直線の方程式、円の方程式、円と直線、軌跡、領域	数学Ⅱ・Bの内容を、教科書の重要事項を振り返りながらひととおり復習する。 (特に重点的に復習する内容) 「図形と方程式」に関して ・点と直線の距離の公式を用いる問題 ・軌跡 「三角関数」に関して ・三角方程式・三角不等式 ・三角関数を含む関数の最大値・最小値 「指数関数・対数関数」に関して ・指数方程式・指数不等式 ・対数方程式・対数不等式 ・指数関数や対数関数を含む関数の最大値・最小値	・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・小テスト(主・思・知) ・課題(主・思・知) ・定期考査(主・思・知) ・提出物(主)
		第4章 三角関数	三角関数の関係式、三角関数のグラフ、加法定理、2倍角の公式・半角の公式、三角関数の合成、三角方程式・三角不等式	「微分・積分」に関して ・3次方程式の異なる実数解の個数 ・曲線や直線で囲まれた図形の面積	
		第5章 指数関数・対数関数	累乗根・指数法則、指数関数のグラフ、指数方程式・指数不等式、対数の性質、対数関数のグラフ、対数方程式・対数不等式、常用対数	「数列」に関して ・漸化式 ・群数列に関する問題 「統計的な推測」に関して ・確率分布について ・統計的な推測について	
	11	第6章 微分法と積分法	微分係数と導関数、関数の値の変化、不定積分、定積分と面積		
		数学B 第1章 数列	等差数列・等比数列とその和、和の記号 Σ 、いろいろな数列の和、階差数列、漸化式		
		第2章 統計的な推測	母集団と標本、標本平均とその分布、推定、仮説検定		
	12		中間考査		
	1	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cの各単元の基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cの既習事項について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが多くなるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底的に行うようにしてください。

令和7年度 理数科 「理数数学特論」 シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	理数科 3年次 H組
教科書	数学Ⅲ, 数学C (数研出版)	副教材等	チャート式 新課程 数学Ⅲ+C (数研出版)

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり身に付ける

(1) ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	1 平面上のベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 ベクトル方程式	平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにする。 ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。更に、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を養う。	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	5	第2章 空間のベクトル	1 空間の座標 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 ベクトルと図形 7 座標空間における図形	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルを用いて空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。	
	6		中間考査		・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	7	第5章 数学的な表現の工夫	2 行列による表現	日常の事象や社会の事象などを行列を用いて工夫して表現することの意義について理解するとともに、それらを積極的に活用して事象を考察する姿勢を培う。	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	9		期末考査		・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	11				
	12		中間考査		・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	1	総合演習		大学入学共通テストに向けての総合演習を行う。	

3 評価の観点

知識・技能	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

3年生ではこれまで以上に家庭での学習時間を確保する必要があります。この授業でも予習と復習は必須です。必ず事前に問題に目を通しておいてから、授業に臨みましょう。元々どこまで理解していたのか、どこでつまづいたのかがわかり、授業を受けて得られるものが増えるはずです。また、1つの問題を解き終えたらその問題のポイントをメモしておくなどして、授業後の復習を徹底に行うようにしてください。

単位数	3	学科・学年・学級	理数科・3年次・H組
教科書	総合物理1（数研出版）・総合物理2（数研出版）	副教材等	セミナー 物理基礎・物理(第一学習社)

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め，科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・光	・光の反射・干渉	・光の干渉を学習し，薄膜による干渉，くさび形空気層による干渉などの干渉条件を理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
		・円運動と万有引力	・等速円運動 ・慣性力 ・単振動 ・万有引力	・等速円運動における物体の速さ，角速度，回転数，周期，加速度，はたらく力などの定義，およびこれらの間に成り立つ関係を学習させる。 遠心力は慣性力の一種であることを例題を扱う中で具体的に把握させる。 ・等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解させる。 ・物体にはたらく力が，常に振動の中心へ向かって引き戻す向きであり，その大きさが振動の中心からの距離に比例するとき，物体の運動は単振動であることを理解させる。	
	5			・ケプラーの法則と運動方程式とから万有引力の公式が得られることを，惑星の運動を等速円運動とみなした場合について導きだす過程を示す中で理解させる。	
	6	・電場	・静電気力 ・電場 ・電位 ・物質と電場 ・コンデンサー	・電場の基本的な性質を学習し，電場と電気力線の関係，一様な電場について理解する。 ・電位の基本的な性質を学習し，等電位面と電気力線の関係，静電誘導，誘電分極について理解する。 ・コンデンサーの原理を学習し，平行板コンデンサーの電気容量，誘電体，誘電率について理解する。	
			中間考査		
	7	・電流	・オームの法則 ・直流回路 ・半導体	・電子の運動をもとにした，オームの法則の導出過程を理解する。 ・電流計，電圧計，電池の内部抵抗について理解し，さまざまな回路において，キルヒホッフの第1，2法則を適用する。 ・ホイートストンブリッジや電位差計のしくみを学習し，非直線抵抗やコンデンサーを含む回路について理解する。 ・半導体の性質を学習し，ダイオードやトランジスタの仕組みについて理解する。	
	9	・電流と磁場 ・電磁誘導と電磁波	・磁場 ・電流のつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・ローレンツ力 ・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導 ・交流の発生 ・電磁波	・磁気力に関するクーロンの法則を学習し，電流が作る磁場の強さと磁場の概形について理解する。 ・ローレンツ力について学習し，磁場中に入射した粒子の運動を理解する。 ・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し，磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 ・交流の発生のしくみを理解し，交流回路における抵抗，コイル，コンデンサーの特性を理解する。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・電子と光	・電子 ・光の粒子性 ・X線 ・粒子の波動性	・光電効果とその特徴を学習し、光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。 ・光子の考えによって、光電効果を理解する。 ・X線の発生とその原理を学習し、特性X線や連続X線、最短波長などについて理解する。 ・ラウエやブラッグの実験を学習し、エネルギー保存の法則や、運動量保存の法則を用いて、コンプトン効果を定量的に理解する。 ・物質波について学習し、粒子性と波動性の二重性を理解する。	
	11				
	12				
			中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	・原子と原子核	・原子の構造とエネルギー準位 ・原子核 ・放射線とその性質 ・核反応と核エネルギー ・素粒子	・水素原子における電子の軌道半径やエネルギー準位について、式を用いて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し、反応の際に放出、吸収されるエネルギーを理解する。	

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して、観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、技能、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

・授業内容がわかるだけではテストで点数は取れない。授業中の演習だけでは不十分であるから、問題集の導入問題、基本例題、基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。 ・疑問に思ったことはすぐに解決を。質問は大歓迎。 ・物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると、より理解を深めることができる。
--

令和7年度 理数 「理数化学」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	理数科 3年次 H組
教科書	化学 academia (実教出版)	副教材等	エクセル化学 総合版 (実教出版) サイエンスビューー化学総合資料 (実教出版) Let's Try Note Chemistry Vol.3 (東京書籍)

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことなどを通して、化学的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成することを目指す。

- (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、化学的に探究する力を養う。
- (3) 化学的な事物・事象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第2章 物質の変化と平衡			・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト
		4 節 化学平衡	①可逆反応と化学平衡 ②化学平衡の移動	・可逆反応，化学平衡および化学平衡の移動を理解する。 (実験) 化学平衡と濃度・温度の関係	
	5		③電解質水溶液の平衡	・水のイオン積，pH，弱酸，弱塩基の電離平衡，溶解度積について理解する。 (実験) 緩衝作用	
			中間考査		
前期	6	第3章 無機物質			・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト
		1 節 元素と周期表	①周期表と元素の性質	・非金属元素の単体・化合物の性質や反応について，周期表と関連づけながら理解し，知識を身につける。 (実験) 非金属元素の性質	
		2 節 非金属元素	①水素と貴ガス ②ハロゲンとその化合物		
	7	3 節 典型金属元素	①アルカリ金属 ②アルカリ土類金属	・金属元素の単体・化合物の性質や反応について，周期表と関連づけながら理解し，知識を身につける。	
前期	9	4 節 遷移元素	①遷移元素とその化合物 ②鉄 (8 族) ③銅 (1 1 族) ④銀 (1 1 族) ⑤亜鉛 (1 2 族) ⑥クロム (6 族) とマンガン (7 族)	・典型元素と遷移元素の特徴を理解する。 (実験) 金属元素の性質	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第5章 高分子化合物 1節 高分子化合物	①高分子化合物の分類と特徴	・高分子化合物の性質や反応を観察，実験を通して探究し，その特徴を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
		2節 天然高分子化合物	①糖 ②タンパク質 ③核酸	・天然高分子化合物の構造や性質を理解する。 (実験) 天然高分子化合物の性質	
	11	3節 合成高分子化合物	①合成繊維 ②プラスチック (合成樹脂) ③機能性高分子化合物 ④ゴム	・合成高分子化合物の構造や性質を理解する。 (実験) 合成高分子化合物の合成	
	12		中間考査		

3 評価の観点

知識・技能	化学的な事物・現象についての観察，実験などを行うことを通して，化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	化学的な事物・現象を対象に，探究の過程を通して，情報の収集，仮設の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。また，報告書を作成したり発表したりして，科学的に探究する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4 評価の方法

下記の(1)～(5)の項目を，評価の観点別(知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取組

授業に対する姿勢，学習態度，化学への関心等で判断する。
評価の観点のうち，特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

(2)ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。
評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取組，取り組んだ内容から評価する。

(5)中間・定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。
評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち，そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和7年度 理数 「 理数生物 」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科 3年 H組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 生物や生物現象に関して、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第8章 動物の反応と行動	①刺激の受容と反応	・ニューロンのしくみについて学習します。 ・眼や耳などの受容器について学習します。	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
	5		②動物の行動	・脳の構造と機能、反射について学習します。 ・筋肉の構造と筋収縮のしくみについて学習します。	
		第9章 植物の成長と環境 応答	①植物と環境 ②植物の一生と植物ホルモ ン	・植物ホルモンについて学習します。 ・発芽、成長、花芽形成、果実の成熟など植物の一生を通じたホルモンとの関連について考察します。	
	6	第10章 生態系のしくみと 人間の関わり	①個体群と生物群集 ②生態系の物質生産と消費 ③生態系と人間生活	・個体群内のさまざまな相互作用について学習します。 ・個体群間のさまざまな相互作用について学習します。	実験等レポート 授業内提出物 前期期末考査
	7			・物質生産や物質収支を通してエネルギーの流れについて学習します。特に窒素の循環について考えます。	
	9		期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	総合演習	中間考査	大学入学共通テストや入試問題に対する実践的な演習を行います。 実験や観察を通して学習事項の確認を行います。	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
	11				
	12				
	1			大学入学共通テストや入試問題に対する実践的な演習を行います。	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。 定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。 評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

教科書および問題集をよく読み、繰り返し解くことで、基礎学力の定着をはかること。 進度が早いので、自分なりに努力することが必要だと考えます。授業前に予習ができると理解が早いです。内容を深く扱うので、何が大事なことなのか自分なりに精査しましょう。

単位数	2	学科・学年・学級	理数科・3年・H組
教科書	啓林館 高等学校 地学	副教材等	センサー 地学 3rdEditon

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら，宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。また、地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い，地学的に探究する能力と態度を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，地学的な見方や考え方を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第2部 地球の歴史 第1章 地表の変化と断層 第2節 地層の連続とその分布	ルートマップ 地質図	・地層の形成及び地質時代における地球環境や地殻変動について理解させる。 ・地層を観察・調査し，ルートマップを作成することができる。 ・地層の観察や測定した結果をもとにして，地質図や地質断面図・地質柱状図などを作ることができる。	・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	5		中間考査		
	6	第3章 私たちの日本列島 第1節 日本列島 第2節 日本列島の歴史	日本周辺のプレート 孤一海溝系としての日本列島 日本列島の地質構造	日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史について学ぶ。	・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	7		日本の起源（原生代～古生代初め） 日本列島の成長（古生代～新生代古第三紀） 日本列島の成立（新生代新第三紀） 第四紀の日本列島		
	9	第1章 太陽系の天体 第1節 地球の運動	地球の自転 地球の公転 太陽の動きと時刻・暦	太陽系の天体の運動と特徴について学ぶ。また，太陽系の中で唯一の恒星である太陽について学ぶ。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2節 惑星の運動	惑星の視運動	太陽系の天体の運動と特徴について学ぶ。また、太陽系の中で唯一の恒星である太陽について学ぶ。	・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
		第3節 太陽系の天体	惑星の軌道運動		
		第4節 太陽	惑星の誕生・惑星の特徴		
	11		太陽の仕組み		
		第2章 恒星の性質と進化	星の明るさ・等級	遠く離れた恒星の性質について、恒星からの光を調べることで明らかにされてきたことを学ぶ。	
		第1節 恒星の光	恒星までの距離の測り方		
	12	第2節 恒星の性質とHR図	HR図・恒星の大きさ		
			中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第3節 恒星の誕生と進化	恒星の誕生・恒星の一生	恒星と星間物質の大集団である銀河系や遠くの銀河などの天体、宇宙の構造や膨張について学ぶ。また、それが天体観測技術の発達によって次第に可能になっていったことを学ぶ。	・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	2	第3章 銀河系と宇宙	銀河系の観測・銀河系の構造		
		第1節 銀河系	様々な銀河・銀河の分布		
	3	第2節 銀河と宇宙	宇宙の大規模構造・ハッブルの法則		

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・事象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りや発展的な内容の問いかけに粘り強く考え、根拠を持って自らの考えを示すことができる。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価基準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

視聴覚教材や情報機器の活用で教科書の内容を積極的に補完し、より豊かなイメージをもつことができますようにします。必要な事柄を要領良く記録してください。学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。
--

令和7年度 スーパーサイエンス「SS-国語β」シラバス

単位数	4	学科・学年・学級	普通科・3学年・G組・SSHコース
教科書	『精選 論理国語』(数研出版) 『文学国語』(数研出版) 『古典探究 古文編』(数研出版) 『古典探究 漢文編』(数研出版)	副教材等	『入試頻出漢字+現代文語彙 TOP2500』(いいずな書店) 『体系古典文法』(数研出版) 『体系漢文』(数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315』(桐原書店) 『新訂総合国語便覧』(第一学習社)

1 学習の到達目標

「論理国語」「文学国語」「古典探究」の目標に準じて、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握する。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。	情報と社会	○「消費されるスポーツ」	・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。 ・文章内容をWEB記事の内容と関連づけて考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
5	「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	随筆	◇『枕草子』「二月つごもりごろに」	・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。	
	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	逸話	◆『後漢書』「梁上君子」	・「一県無復盜窃」について、県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたのか考える。	
	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	昭和初期の小説	●『山椒魚』	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのよう	
6			中間考査		

	「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	明治の小説	●「舞姫」	・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。 ・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 ・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。 ・森鷗外『普請中』を読み、『普請中』の渡辺参事官・「女」、『舞姫』の豊太郎・エリス、計四人の人物像を、比較しながらまとめる。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
7	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	日記文学	◇『蜻蛉日記』うつろひたる菊	・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくろひて書きて、うつろひたる菊にさし」て贈った作者の気持ちについて話し合う。	
	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。	小説	◆『本事詩』『人面桃花』	・本文中の詩について、対比されているものは何かを考える。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。 ・女が死んだ理由と再び生き返った理由をまとめる。	
8 9	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。	近代と現代の視点	○「科学・技術の歴史の中での社会」 ◆探究の扉 科学の現場・科学と生命	・科学・技術の歴史を読み取り、『道具』としての意味合いを持った科学の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。 ・「科学」について書かれた二つの文章の内容と表現の共通点と相違点を読み取る。 ・科学における「権威主義」について理解する。	
			期末考査		

10	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。	考えの表出	○「空気」と「世間」・「世間」とは何か	・《「空気」と「世間」》と《「世間」とは何か》を読み比べたうえで、「世間」と「社会」という「ダブルスタンダードを生きる日本人」について考察し、意見をまとめる。	・授業態度 ・発問評価 ・音読 ・学習課題の提出 ・感想文の提出 ・小テスト ・定期考査 等
	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	昭和中期の小説	●赤い繭	・本文を三つに分けて、「おれ」が置かれている状況をそれぞれまとめる。 ・「だが、家が出来ても、今度は帰ってゆくおれがいない」とは、どういうことを考える。 ・この作品に込められた寓意は、どのようなものかを話し合う。	
11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	史伝	◆『廉頗・藺相如』『壁を趙に帰さしむ』	・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	
12	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	情報と知性	○「生命の知性」	・筆者の主張を踏まえて、「生命らしい知性」とは何か考察する。 ・状況に依存した思考とは具体的にどのようなことか説明する。	
学年末考査					
1	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にする。	考えの表出	○「人はなぜ働かなくてはならないのか」	・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。	

3 評価の観点

知識・技能	実社会・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的・批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

——ことばや文章、思考や信条を通して、それらを文化として形作ってきた人間存在の本質を学ぶ学問
 「国語」という学問と向き合う時間の中では、様々なテキストを読むことで培う論理展開の方法や創造性によって、自身の考えをより深化させ、表現をより多彩なものとしていくことを目指します。また、古典においては先人たちの考え方を理解し、現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりしながら、皆さん自身の人生を豊かなものにしていけるでしょう。

授業を通しては、単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

※『小論文ジャンル別キーワード解説』は、5・6・9章を前期中間考査で、1・4・7章を前期期末考査で、2・3・8章を後期中間考査で出題します。